

～過去 23 年の統計データから分析～
日本株の傾向と対策（2023 年版）
【特別レポート】

～特別レポートをお読み頂く前に～

(著作権と使用許諾につきまして)

この特別レポート（以下、本レポートとする）は著作権法で保護される著作物です。

つきましては取り扱いについては以下の点にご注意ください。

本レポートの著作権は、「フェアトレード株式会社」にあります。

著作権者の書面による事前承諾なく、本レポートの一部またはすべてをあらゆる手段（紙媒体、電子媒体、映像媒体、音声等）により、複製、流用、転載、およびオークション等での転売行為を一切禁じます。

本契約は、この本レポートをダウンロードした個人または法人（以下、甲とする）と著作権者（以下、乙とする）との間で合意した契約です。この本レポートを甲が受け取った時点で、甲はこの契約に同意したものとみなします。

第1条（契約の目的）

本契約に基づき、乙が著作権を有する本レポートに含まれる情報において、甲の非独占的使用権を許諾するものです。本レポートは、投資判断の参考となる情報を目的としたものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。

第2条（禁止事項）

本レポートに含まれる情報は、著作権法によって保護されています。

乙の書面による事前の許可なく、甲は本レポートから得た情報の一部またはすべてを一般公開（紙媒体、電子媒体、映像媒体、音声等）することを禁じます。公開には出版、講演および電子メール等での配信およびホームページでの公開も含まれるものとします。本レポートの情報は、甲が自ら使用する場合においてのみ許諾されるものとします。

第3条（責任の範囲）

本レポート内の各種データに関しては万全を期しており、記載のある投資手法について有益性があるものと確信していますが、その正確性を乙が保障するものではありません。

運用および投資にあたっては、投資者である甲自身の責任において行うものとします。

万一、本レポートの記載内容に従って甲が投資を行い、損害が発生しても、損失金額の補填および弁済その他一切の責任を乙は負わないものとします。

ご挨拶

この度は、「～過去 23 年の統計データから分析～日本株の傾向と対策（2023 年版）」【特別レポート】をダウンロードいただきまして、ありがとうございます。

このレポートでは、システムトレードを活用した日本株の傾向と対策を紹介します。

本レポートを通して、皆様がシステムトレードに関して理解を深めていただければ幸いです。

それでは、私、西村剛のプロフィールをご紹介します。

西村剛 （にしむらつよし）

フェアトレード株式会社 代表取締役

1997 年 国際投信委託株式会社（現国際投信投資顧問株式会社）入社。

国内株式中小型株アナリスト兼ファンドマネージャーとして株式運用に携わる。

2005 年 フェアトレード株式会社

個人投資家にセミナーや執筆活動を行う株式投資教育会社を設立。

斎藤正章氏開発のソフト『システムトレードの達人』をリリースし、システムトレードを広めるべく尽力している。

初心者にわかりやすい言葉を使った解説に定評があり、信頼を多く集めている教え上手な専門家。

長年、講師を務めるシステムトレーダー養成講座では、累計 1,000 名以上が受講しており、老若男女問わずシステムトレーダーになれるよう、講座やカリキュラムづくりに力を注いでいる。

2011 年タ刊フジ株-1 グランドチャンピオン大会で+200.4%、2012 年+160.1%、2013 年+157.0%を叩き出し三連覇達成。

統計学データを重視したシステムトレードとファンダメンタルを組み合わせた銘柄分析を得意とする。

著書：『株 2 年生の教科書』 『株 3 年生の教科書』（総合科学出版）

『実戦 空売りトレード』 『大証 FX 入門』（明日香出版社）

DVD：『西村剛式 上昇相場で利益を増やす！基本戦略改良ポイント』

『アノマリーを活用した売買ルール改良法』

証券アナリスト協会検定会員

All About 株式ガイド

みんなの株式 予想の達人として投稿中

YouTube でも活躍中

目次

まえがき	5
アノマリーとは？	5
I. 月別アノマリー紹介	7
1. 1月アノマリー	9
2. 2月アノマリー	16
3. 3月アノマリー	23
4. 4月アノマリー	30
5. 5月アノマリー	37
6. 6月アノマリー	44
7. 7月アノマリー	51
8. 8月アノマリー	58
9. 9月アノマリー	65
10. 10月アノマリー	72
11. 11月アノマリー	79
12. 12月アノマリー	86
13. まとめ	94
参考文献・資料等	97

まえがき

アノマリーとは？

こんにちは。西村剛です。突然ですが、株を買う「絶好のタイミング」があるのはご存知でしょうか？株式投資においては「何を買うか？」も重要ですが、「いつ買うか？」もそれ以上に重要です。実は日本株市場ではあるタイミングで株価が高確率で上がりやすい傾向が見られます。そのタイミングを狙うために理解しておきたいのが「アノマリー」なのです。

そもそも「アノマリー」とは、

- 株式市場において、なぜそう動くのかはわからないが、なぜかその時が来ると株式市場が前もって決められたように動く傾向。
- 株式市場に存在する規則性。明確に予測できる周期的なパターン。

この2つのことを意味しています。そして、この「アノマリー」を取り入れることには3つのメリットがあります。

- アノマリーを知っていれば、おおよその買い付けするタイミングと、手仕舞いするタイミングがわかる。
- アノマリーを一つでも多く知っていれば、その分だけ収益が向上する可能性がある。
- 相場の傾向を掴むことができることから、上手く取り入れることで利益を増やしつつ、損失を減らすことができる。

株式投資の上級者なら必ずといっていいほど知っている「アノマリー」を知ることで、成績を改善させることが期待できるでしょう。そこで本レポートにおいて過去 22 年分の株価データを基に日本株の「アノマリー」についてまとめました。

株式市場には「アノマリー」と呼ばれている、予測できる「周期的なパターン」がいくつか存在します。

- 季節性アノマリー
- 曜日アノマリー
- 年末年始アノマリー
- 月別アノマリー

このような「〇〇アノマリー」という言葉をあなたは聞いたことがあるかもしれません。しかし

ながら世の中に知られているアノマリーのなかには言葉だけが先行し、実際に検証してみるとそのようなパターンとなっていないアノマリーも存在します。ですので、しっかりと統計的に有効なアノマリーを活用することが株式投資で成功するために重要なのです。

そこでシステムトレードという過去の株価データを基に統計的にデータを分析する手法を活用することで統計的に有効なアノマリーだけを探し出してみました。システムトレードは過去の株価データに基づき、統計的な有効性を検証することができる手法です。そのため、有効な「アノマリー」とそうでない「アノマリー」を見分けることができます。

このレポートでは世の中に知られている数多くのアノマリーの中から、「月別アノマリー」に焦点を当て、過去の統計データを分析し各月にどのような傾向があるのか、どのような戦略をとるとよいのかをお伝えします。このレポートの内容を理解し、あなたのトレードに「アノマリー」を取り入れれば、きっとあなたのトレードでの成績は、アノマリーを取り入れる前と比較し

- 勝率がアップ
- 平均損益率がアップ
- 最大ドローダウン（リスク）が減少

このような効果が得られると考えています。ぜひこのレポートをお読みいただき「アノマリー」を活用し、トレードの成績をアップさせましょう。

I. 月別アノマリー紹介

1. 月別アノマリー紹介

まず今回の分析をするに当たって以下のように定義付け検証を行ないました。

<過去 23 年の上昇率ランキング>

- ・期間：2000年1月1日～2022年12月31日
- ・月初に全銘柄を20万円分ずつ買って、取引最終日に全部売ったと仮定したときに、株価が上がったら上昇、株価が下がったら下落として回数を記載しました。上昇率の高い月から順番に「上昇率ランキング」として順位をつけました。

<日本株市場の傾向>

- ・期間：2000年1月1日～2022年12月31日
- ・東証1部、東証2部・大証・名証、ジャスダック・マザーズの3区分において、月初に全銘柄を20万円分ずつ買って、取引最終日に全部売ったと仮定します。その時の検証結果をまとめました。

<業種別ベスト・ワースト>

- ・期間：2000年1月1日～2022年12月31日
- ・東証33業種の分類を行ったときに、毎月の平均損益率が高い銘柄・低い銘柄をそれぞれ10銘柄ずつ紹介しました。勝率と平均損益率を掲載しました。

<勝率の高い銘柄>・<勝率の低い銘柄>

- ・期間：2000年1月1日～2022年12月31日
- ・月初に全銘柄を20万円分ずつ買って、取引最終日に全部売ったと仮定したときに、勝率が高かった（低かった）銘柄を紹介しました。ただし、過去の取引が極端に少ない銘柄は除外しました。

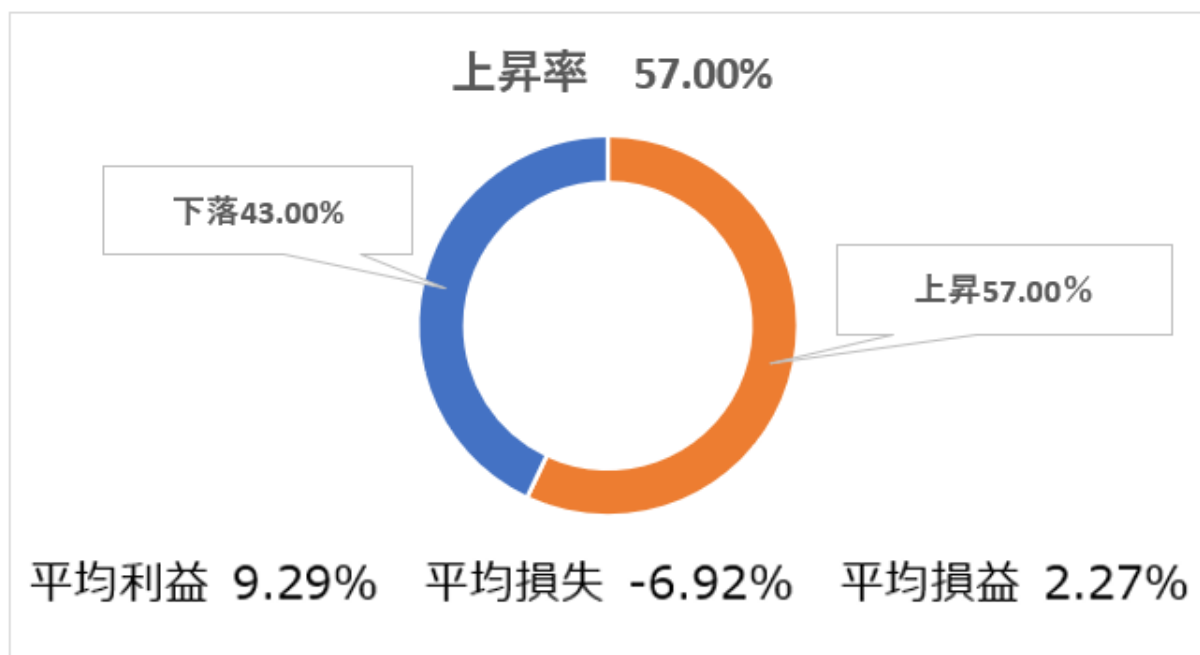
それでは各月の傾向をご覧ください。

1. 月別アノマリー紹介

1. 1月アノマリー

<1月の傾向と対策>

過去23年の上昇率ランキング **1位**
中小型株で強い上昇傾向を確認！！

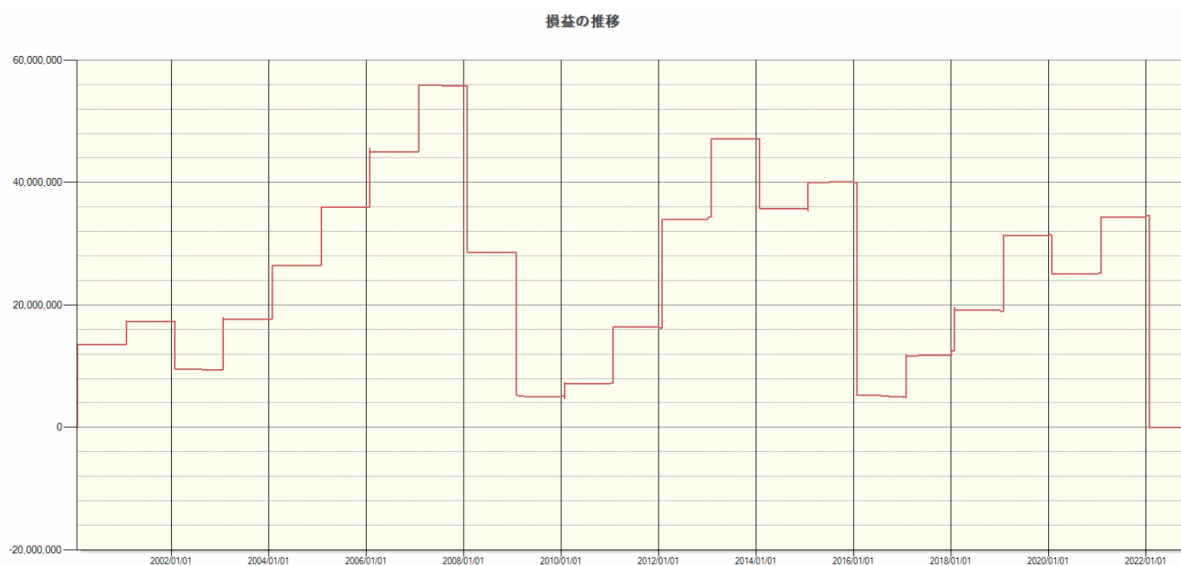


1月相場は「ご祝儀相場」として投資家に広く知られています。年末最後の立会いである大納会に続き、年明け最初の立会いである大発会にもご祝儀の意味を込めた買いが入りやすく、株価が上昇しやすい月といわれています。過去の株価データをみると、上昇率 57.00%、平均利益 9.29%、平均損失 -6.92%、平均損益 2.27%となっており、1年の中で最も高い上昇率となりました。平均損益は2%近くまで上昇し、強い上昇傾向が確認できます。

1月相場は12月のボーナスがあるため、個人投資家の資金が比較的潤沢です。個人投資家の動きが活発となり、中小型株に資金が集まります。戦略としては、個人投資家の売買の中心である中小型株に注目した戦略をとるとよいでしょう。

<日本株市場の傾向>

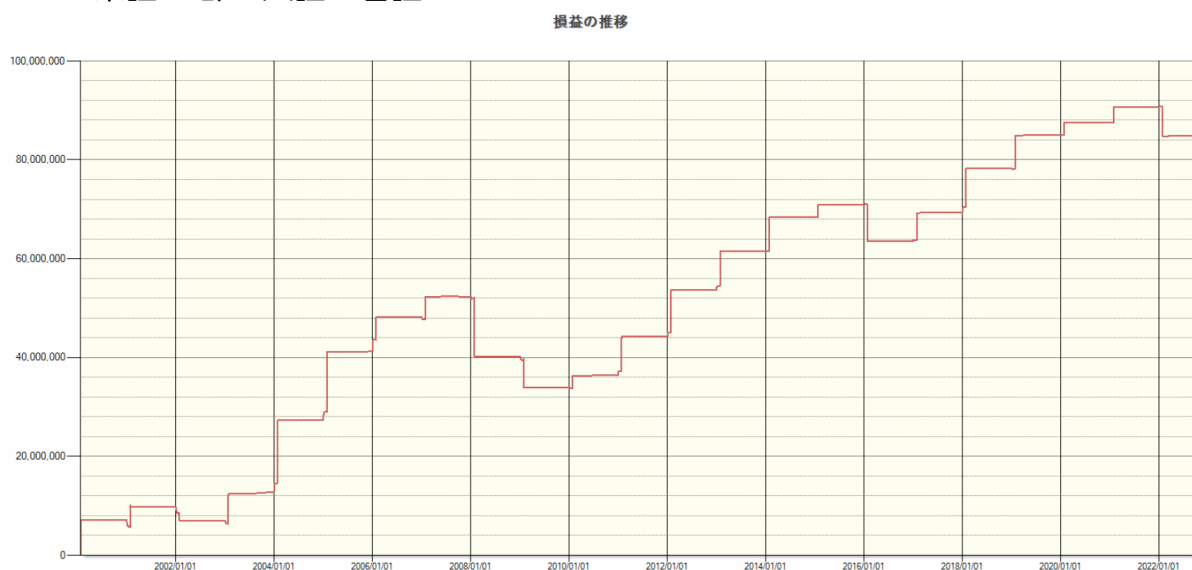
■東証1部■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証1部では、勝率47.63%、平均損益-0.01%となっています。平均損益がほぼプラスマイナスとなっております。

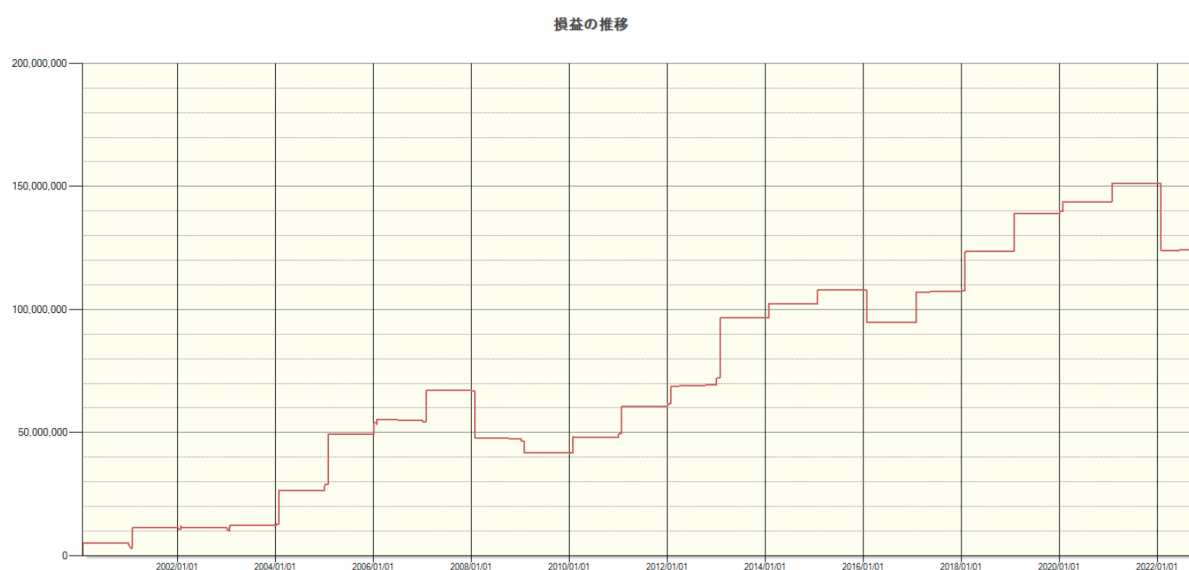
■東証2部・大証・名証■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証2部・大証・名証では勝率59.08%、平均損益2.67%となっています。勝率は60%弱あり、平均損益は約2%を超え、強い上昇傾向があります。

■ジャスダック・マザーズ■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

ジャスダック・マザーズでは勝率 57.36%、平均損益 2.94%となっています。勝率は約 60%、平均損益は約 3%と、東証 2 部・大証・名証と同様に強い上昇傾向があります。

検証結果	トレード回数	勝率	平均損益	合計損益	PF
東証 1 部	43,100 回	47.63%	-0.01%	-26870 円	0.999
東 2・大・名	15,832 回	59.08%	2.67%	84,619,750 円	1.973
JQ・M	21,100 回	57.36%	2.94%	124,041,875 円	1.779

市場別では、東証 1 部が僅かにマイナスであるものの、東証 2 部・大証・名証、ジャスダック・マザーズでは平均損益が 2%を超えて、平均損益がプラスとなっており、市場全体で株価が上がりやすいことがわかります。強い上昇傾向が確認できます。1 月は 12 月のボーナスがあり、個人投資家の動きが活発になるため、大型株よりも中小型株において強い上昇傾向があるという結果になりました。

＜業種別ベスト・ワースト＞

ベスト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	繊維	57.78%	1.05%
②	空運	52.17%	1.00%
③	造船	61.36%	0.89%
④	機械	52.88%	0.81%
⑤	海運	53.62%	0.61%

ワースト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	小売業	40.25%	-2.68%
②	その他金融	40.91%	-2.32%
③	石油	31.25%	-2.31%
④	鉱業	50.00%	-1.73%
⑤	ゴム	41.30%	-1.64%

業種別で見ると、繊維や空運が上位にランクインしており、景気敏感株が買われる傾向にあります。

＜勝率が高い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	クエスト(2332)	95.00%	5.57%
②	ワイズテーブルコーポレーション(2798)	94.44%	6.56%
③	日本ケアサプライ(2393)	94.44%	6.16%
④	森組(1853)	94.12%	11.75%
⑤	秩父鉄道(9012)	93.75%	4.23%
⑥	シーボン(4926)	92.31%	5.24%
⑦	Minorisonソリューションズ(3822)	92.31%	4.18%
⑧	サンメッセ(7883)	92.31%	3.11%
⑨	安楽亭(7562)	91.30%	2.69%
⑩	シンプレクス・ホールディングス(4340)	90.91%	14.67%

＜勝率が低い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	トーホー(8142)	4.55%	-3.71%
②	ピープル(7865)	4.55%	-10.32%
③	タカショー(7590)	4.76%	-8.06%
④	アジア債券(1349)	7.69%	-1.61%
⑤	四国コカ・コーラボトリング(2578)	10.00%	-3.90%
⑥	日本トイザラス(7645)	10.00%	-6.59%
⑦	元旦ビューティ工業(5935)	10.00%	-3.26%
⑧	NEXT NOTES 韓国KOSPI・ベアETN(2034)	11.11%	-3.06%
⑨	オークネット(9669)	11.11%	-7.33%
⑩	ジャパン(7498)	14.29%	-0.65%

※上記は過去23年のデータであり上場廃止銘柄も多く含まれていますのでご注意ください。

<注目優待>

「ダイドーグループホールディングス <2590>」

【権利確定月】1月20日、7月20日

【優待内容】

- ・1月 【保有期間6か月以上】……同社グループ賞品（6,000円相当）
- ・7月 【保有期間5年以上】……記念品（1回限り贈呈）

「ストリーム <3071>」

【権利確定月】1月末

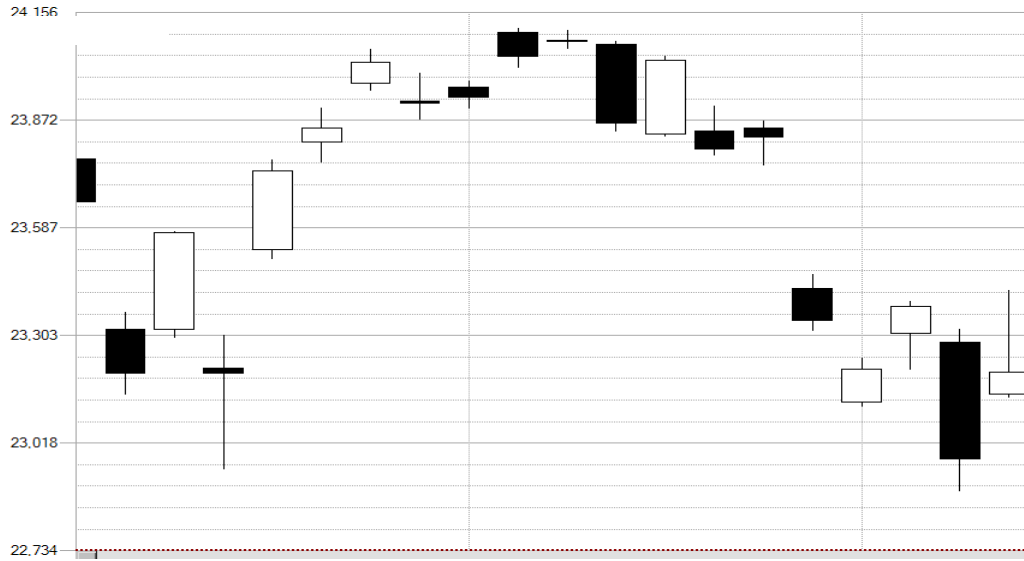
【優待内容】「ECカレント」サイトまたは「エックスワン」サイトにて利用可

- ・100株以上 1,000円券……1枚
- ・2,500株以上 1,000円券……3枚
- ・5,000株以上 1,000円券……5枚
- ・10,000株以上 10,000円券……1枚
- ・50,000株以上 10,000円券……5枚

参考資料

<過去 3 年の日経平均株価の推移>

■2020 年 1 月■



新型コロナウイルスの影響により、世界の経済活動が減速するとの懸念が強まったことなどから月末にかけて下落しました。

※※※

■2021 年 1 月■



米国ではバイデン新政権が発足し、日本企業に影響が大きい米国の景気停滞への警戒が和らぎ、また海外では新型コロナウイルスのワクチン接種が広まり、買い材料になりました。

※※※

■2022年1月■

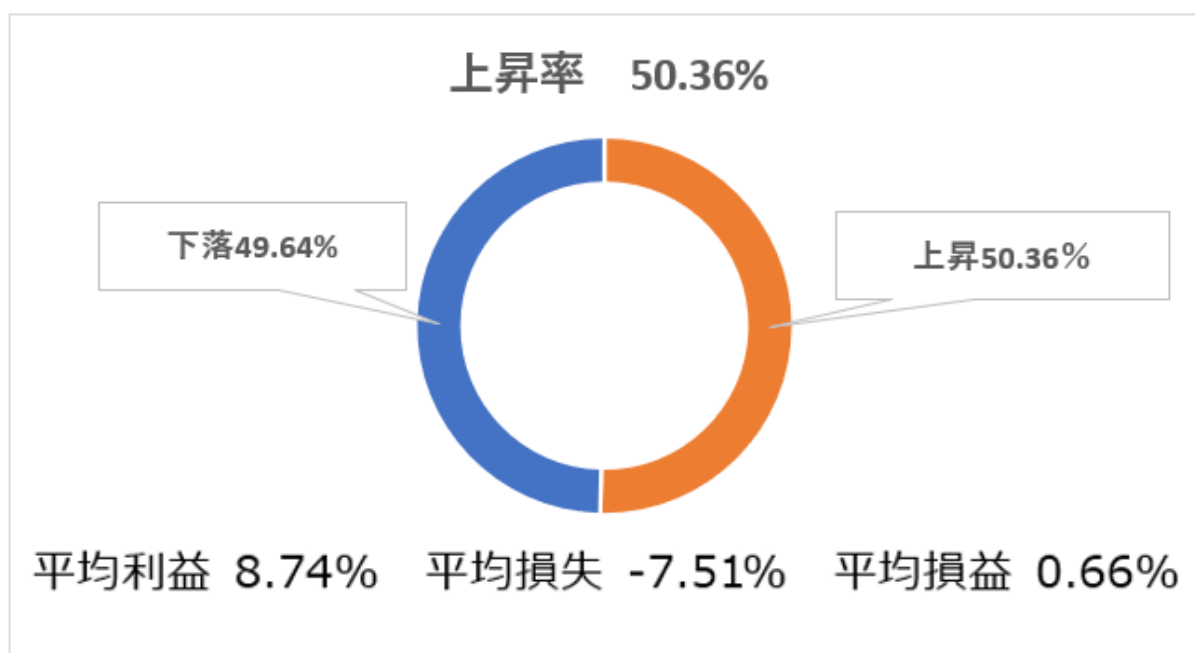


米 FRB の金融引き締めへの積極姿勢が意識され、金利上昇警戒から米国株のけん引役であるハイテク株の割高感が強まったため米国株が売られた結果、日本株も売りに波及しました。
 ※※※

1. 月別アノマリー紹介
2. 2月アノマリー

<2月の傾向と対策>

過去23年の上昇率ランキング **5位**
3月末の利益確定を見据えた戦略が有効

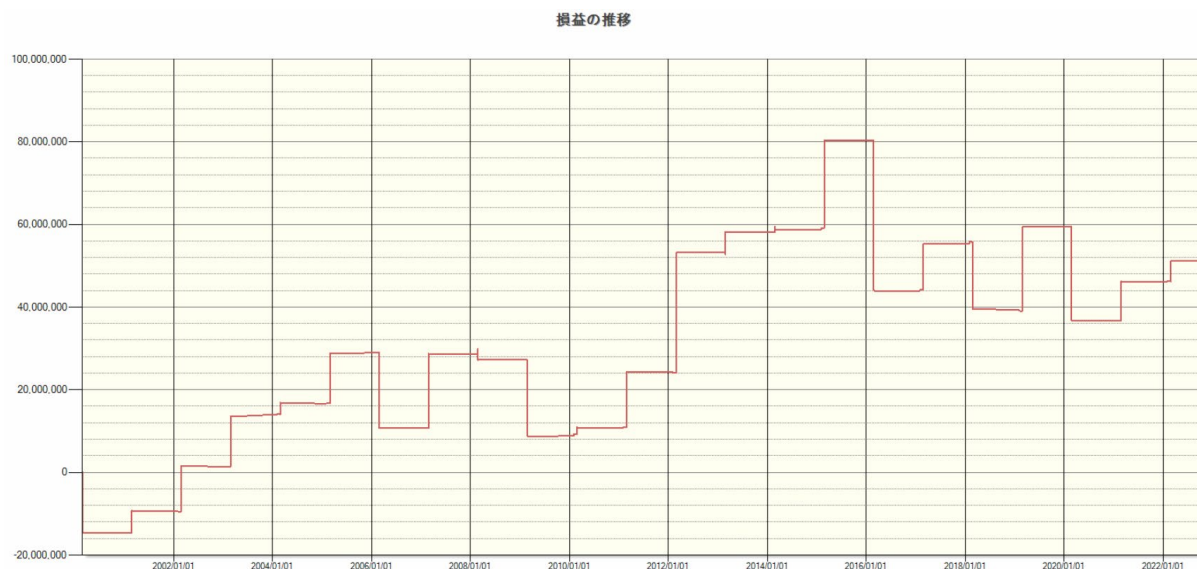


2月相場は、3月決算企業が決算を控えているため利益確定売りが出やすく、例年株価が下落する傾向があると言われていました。ただし、実際の過去の株価データを確認すると、そのような傾向が当てはまらないケースもしばしばあります。過去の株価データをみると、上昇率 50.36%、平均利益 8.74%、平均損失 -7.51%、平均損益 0.66%となっています。勝率は五分五分ですが、平均損益は1月に続きプラスとなっています。この結果を見る限り、必ずしも2月相場は下がりやすい傾向があるとは言えないでしょう。

2月は3月末の権利確定を目的として個人投資家が積極的に買いを入れる傾向があります。そのため、株主優待や配当狙いの売買が増えるため、株主優待や配当が充実している人気銘柄をチェックしておくといでしょう。

<日本株市場の傾向>

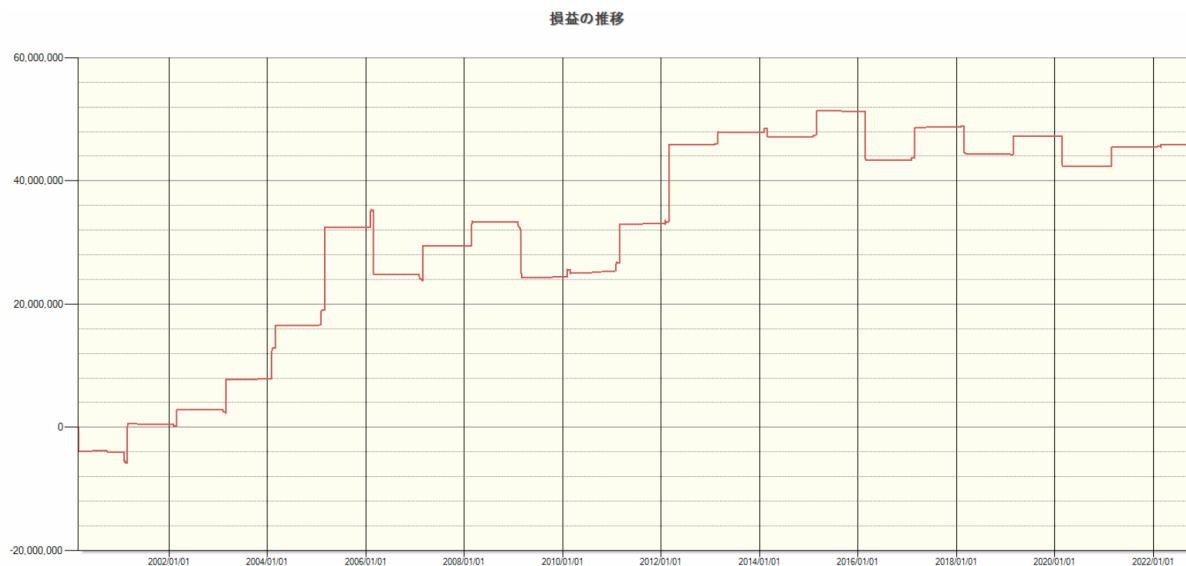
■東証1部■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証1部では、勝率 52.24%、平均損益 0.59%となっています。勝率は 50%を越え、平均損益がプラスとなっており、上昇傾向があります。

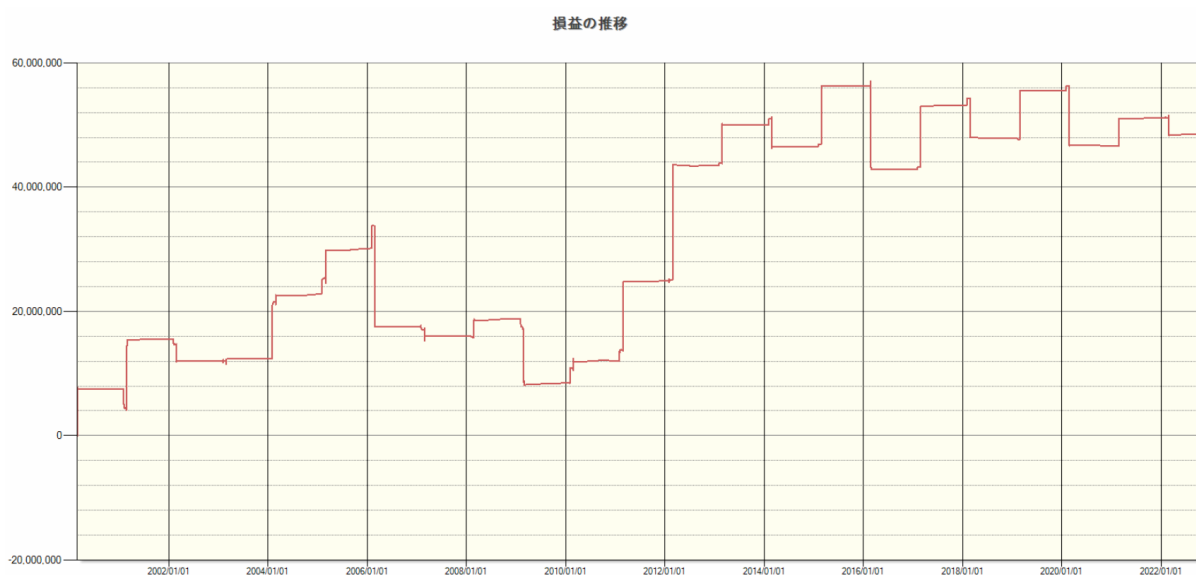
■東証2部・大証・名証■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証2部・大証・名証では勝率 52.53%、平均損益 1.37%となっています。勝率は 50%を越え、平均損益が 1%を越えており、強い上昇傾向があります。

■ジャスダック・マザーズ■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

ジャスダック・マザーズでは勝率 47.01%、平均損益 1.11%となっています。勝率は 50%を下回っていますが、平均損益が 1%を越えており、強い上昇傾向があります。

検証結果	トレード回数	勝率	平均損益	合計損益	PF
東証 1 部	43,186 回	52.24%	0.59%	51,189,074 円	1.188
東 2・大・名	16,805 回	52.53%	1.37%	46,085,943 円	1.403
JQ・M	22,080 回	47.01%	1.11%	49,043,594	1.244

市場別では、12 月から 3 か月連続で 3 区分とも平均損益がプラスとなりました。東証 2 部・大証・名証では平均損益 1.37%、ジャスダック・マザーズでは平均損益 1.11%となっており、この 2 区分で平均損益が 1%を越える強い上昇が確認できます。個人投資家が 3 月末の権利確定を狙った買いを行うため、中小型株の株価が上がりやすくなっています。

＜業種別ベスト・ワースト＞

ベスト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	鉄鋼	61.70%	4.63%
②	ゴム	69.57%	4.39%
③	商社	66.88%	4.36%
④	鉱業	68.75%	4.01%
⑤	保険	65.91%	2.34%

ワースト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	繊維	38.82%	-1.11%
②	建設	40.50%	-0.99%
③	小売業	51.27%	-0.58%
④	陸運	50.00%	-0.20%
⑤	化学	51.70%	-0.08%

業種別でみると、平均損益は1月に比べ高くなっています。特に、鉄鋼・ゴムなどの資源系に買いが集まっています。

＜勝率が高い銘柄＞

＜勝率が低い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	積水ハウス・レジデンス シャル投資法人(8973)	91.67%	7.52%
②	みずほインベスターズ証 券(8607)	90.91%	3.53%
③	ユニマットライフ(7560)	90.00%	3.63%
④	日立粉末冶金(5944)	88.89%	2.55%
⑤	ミツミ電機(6767)	87.50%	9.16%
⑥	ジャパン・ホテル・リー ト投資法人(8985)	87.50%	5.23%
⑦	東映ラボ・テック(9732)	87.50%	4.17%
⑧	相模ハム(2289)	87.50%	3.51%
⑨	大宝運輸(9040)	87.50%	1.74%
⑩	グラフテック(6968)	87.50%	3.45%

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	マックスバリュ東北 (2655)	5.00%	-8.20%
②	カルラ(2789)	5.26%	-4.58%
③	北雄ラッキー(2747)	5.26%	-7.40%
④	マックスバリュ東海 (8198)	5.56%	-5.28%
⑤	AFC-HD(2927)	5.88%	-4.78%
⑥	ダイユーエイト(2662)	6.25%	-6.22%
⑦	内外テック(3374)	6.25%	-8.00%
⑧	大日光・エンジニアリン グ(6635)	6.67%	-11.04%
⑨	鐘崎(2912)	7.69%	-6.23%
⑩	柿安本店(2294)	8.70%	-3.71%

※上記は過去23年のデータであり上場廃止銘柄も多く含まれていますのでご留意下さい。

＜注目優待＞

「天満屋ストア <9846>」

【権利確定月】2月末日・8月末日

【優待内容】(1) 天満屋ギフトカード または (2) VJA ギフトカード

- 100株以上……(1) 1,000円相当 または (2) 1,000円相当
- 500株以上……(1) 2,000円相当 または (2) 1,000円相当
- 1,000株以上……(1) 3,000円相当 または (2) 3,000円相当
- 2,000株以上……(1) 4,000円相当 または (2) 3,000円相当
- 3,000株以上……(1) 5,000円相当 または (2) 3,000円相当
- 4,000株以上……(1) 7,000円相当 または (2) 3,000円相当
- 5,000株以上……(1) 10,000円相当 または (2) 3,000円相当

「ライフフーズ <3065>」

【権利確定月】2月末日、8月末日

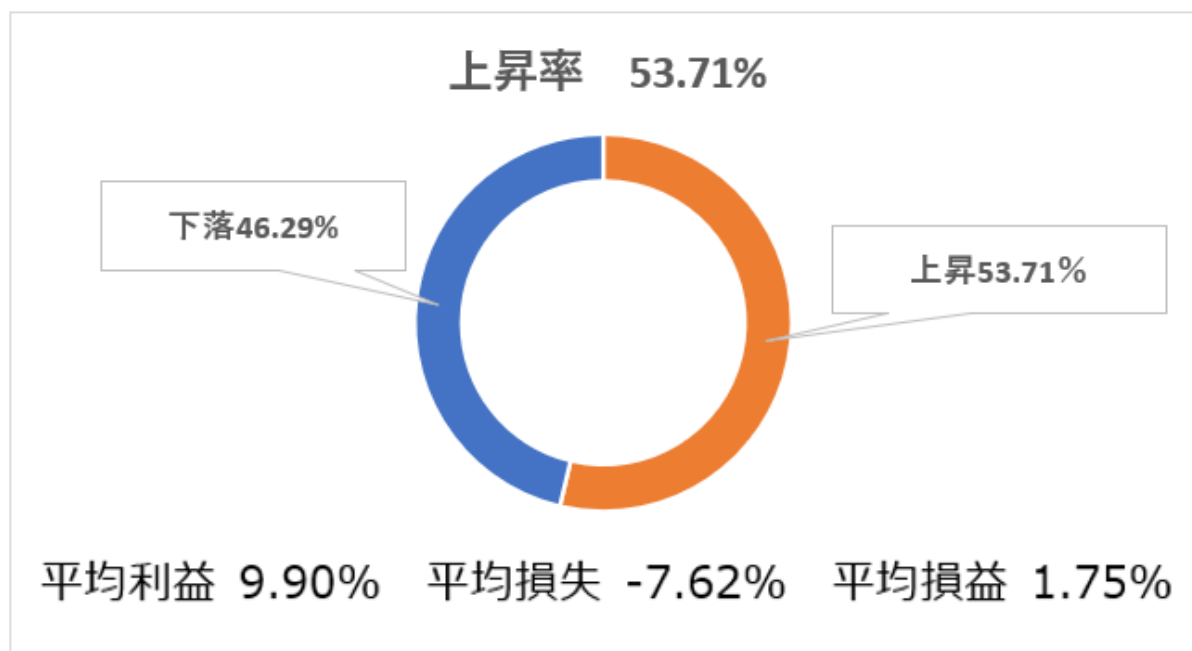
【優待内容】自社で利用可能な(1)自社優待券 または(2)ジェフグルメカード

- 100株以上……(1) 1,000円分または(2) 500円
- 200株以上……(1) 3,000円分または(2) 1,500円
- 500株以上……(1) 6,000円分または(2) 3,000円

1. 月別アノマリー紹介
3. 3月アノマリー

<3月の傾向と対策>

過去23年の上昇率ランキング **2位**
買い勢力、売り勢力ともに材料豊富な月！！



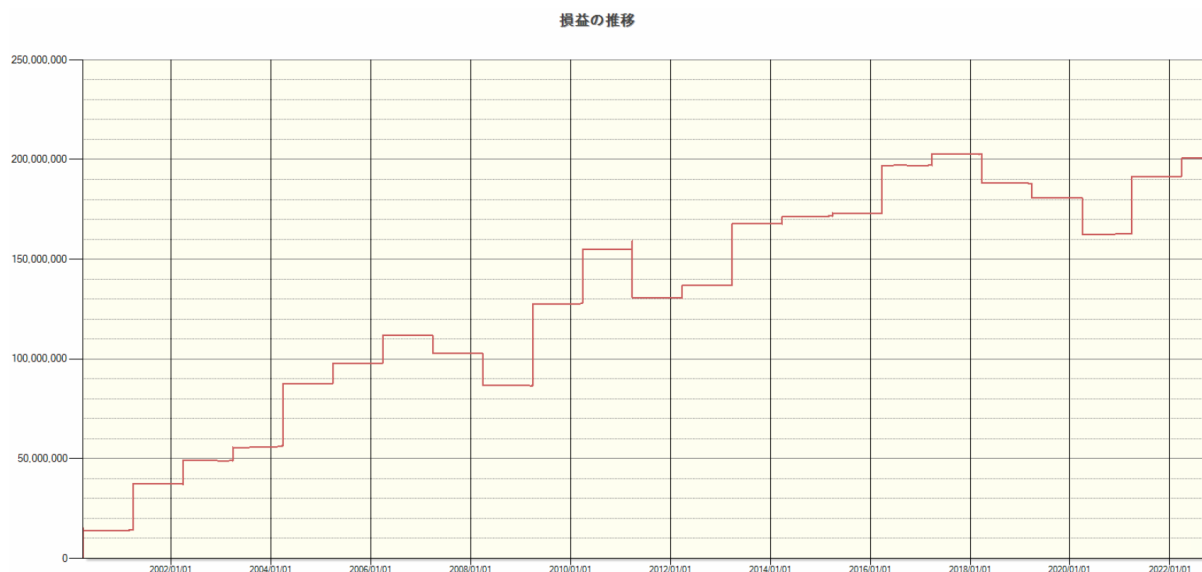
3月は3月期決算の業績が確定する月であり、決算に伴い株主優待や配当の権利が確定する月です。配当や優待を目当てとした買いが入るため、比較的株価が上昇しやすい月です。過去の株価データをみると、上昇率53.71%、平均利益9.90%、平均損失-7.62%、平均損益1.75%となっており、1年の中で2番目に高い上昇率となっています。

3月は機関投資家や3月決算企業が決算対策の株式売却を行う反面、企業やファンドが年度末の決算内容をよく見せるために自分で買いを入れる「ドレッシング買い」が出たりするなど、様々な要因で株価が上昇する月となっています。一方で、法人企業や機関投資家が決算対策に株式を売却することから、売りも出やすい月ともいわれています。買い勢力、売り勢力ともに材料豊富な3月相場ですが、過去のデータを用いて検証した結果によれば、総合的に見て上昇しやすい傾向があります。

このように、3月は市場全体で上昇傾向がありますので3月に買っても利益が期待できますが、人気銘柄は2月に先回りして買っておくとなお良いでしょう。

<日本株市場の傾向>

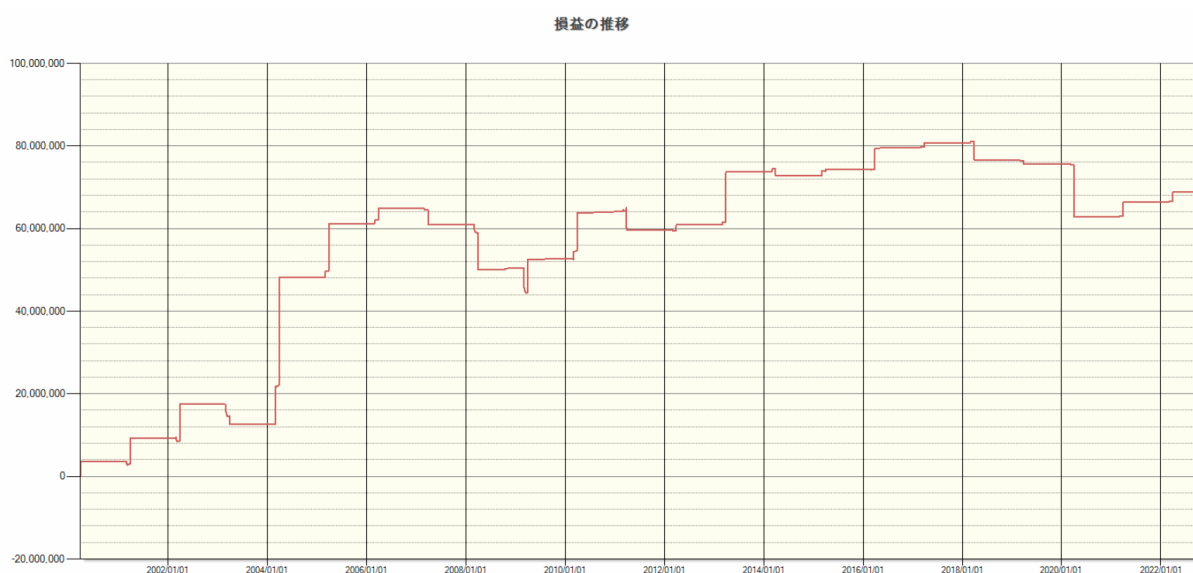
■東証1部■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証1部では、勝率58.43%、平均損益2.31%となっています。勝率は50%を超え、平均損益は2%を超えており、強い上昇傾向があります。

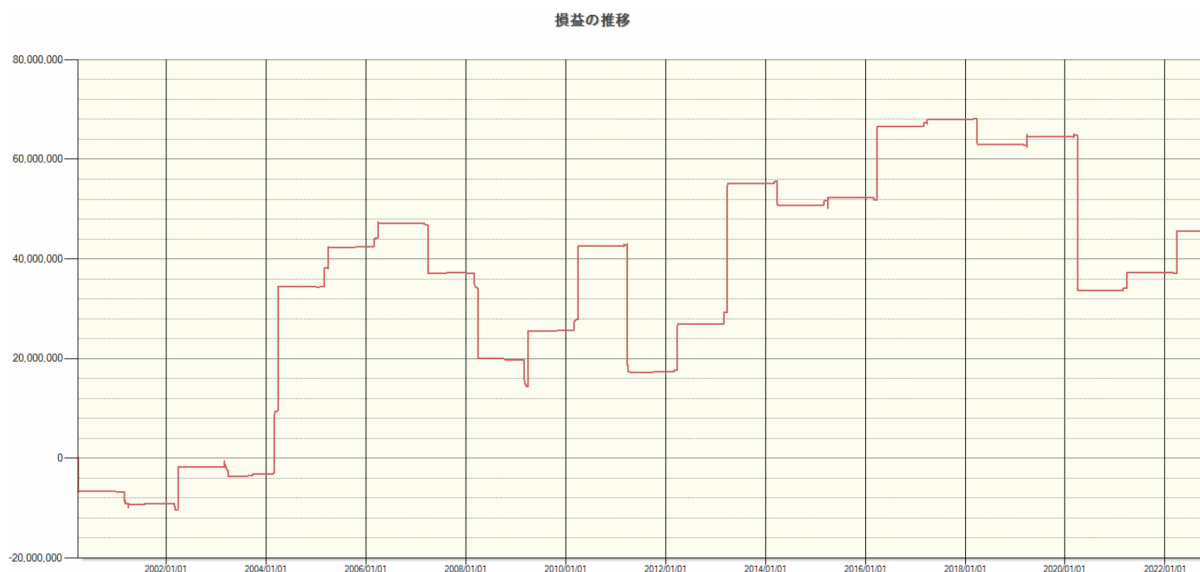
■東証2部・大証・名証■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証2部・大証・名証では勝率52.78%、平均損益2.03%となっています。東証1部と同様に勝率は50%を超え、平均損益は約2%となっており、強い上昇傾向があります。

■ ジャスダック・マザーズ ■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

ジャスダック・マザーズでは勝率 48.06%、平均損益 1.03%となっています。勝率は 50% を下回っていますが、平均損益はプラスとなっており、上昇傾向があります。

検証結果	トレード回数	勝率	平均損益	合計損益	PF
東証 1 部	43,475 回	58.43%	2.31%	200,764,770 円	1.890
東 2・大・名	16,968 回	52.78%	2.03%	68,758,058 円	1.573
JQ・M	22,172 回	48.06%	1.03%	45,524,613 円	1.204

市場別では、3 区分とも平均損益がプラスとなっており、市場全体で株価が上昇しやすくなっています。特に、東証 1 部、東証 2 部・大証・名証では平均損益が 2% を越える強い上昇傾向があります。3 月は機関投資家、個人投資家ともに動きが活発です。総合的にみると上昇しやすい月ですが、買い勢力、売り勢力ともに材料豊富な月となっています。

＜業種別ベスト・ワースト＞

ベスト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	倉庫	69.57%	4.36%
②	小売業	64.15%	3.81%
③	その他金融	59.09%	3.42%
④	窯業	59.78%	3.33%
⑤	食品	68.18%	3.30%

ワースト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	電力	39.71%	-1.31%
②	鉄鋼	42.11%	-0.57%
③	保険	44.94%	-0.55%
④	海運	41.18%	-0.26%
⑤	自動車	49.78%	0.24%

業種別で見ると、ベストの業種は平均損益が3%を越えており、2月に引き続き高い勝率・平均損益となっています。

＜勝率が高い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	トーエル(3361)	94.12%	11.87%
②	ヤガミ(7488)	92.31%	4.39%
③	ザ・トーカイ(8134)	91.67%	10.14%
④	アゼアス(3161)	91.67%	8.39%
⑤	BRUNO(3140)	91.67%	4.22%
⑥	ザ・パック(3950)	90.91%	6.64%
⑦	エニグモ(3665)	90.00%	19.09%
⑧	中央毛織(3207)	90.00%	11.19%
⑨	雪印乳業(2262)	90.00%	8.18%
⑩	カルチュア・コンビニエンス・クラブ(4756)	90.00%	6.87%

＜勝率が低い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	横浜魚類(7443)	4.55%	-5.83%
②	マルサンアイ(2551)	4.76%	-3.96%
③	新潟交通(9017)	5.00%	-4.83%
④	ノエビア(4916)	8.33%	-3.36%
⑤	アトム(7412)	9.52%	-4.41%
⑥	中日本興業(9643)	10.53%	-2.05%
⑦	松本建工(1779)	11.11%	-4.86%
⑧	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ(6090)	11.11%	-5.95%
⑨	ライドオンエクスプレスホールディングス(6082)	11.11%	-6.75%
⑩	ツヴァイ(2417)	12.50%	1.08%

※上記は過去23年のデータであり上場廃止銘柄も多く含まれていますのでご留意下さい。

<注目優待>

「トリドールホールディングス <3397>」

【権利確定月】3月末、9月末

【優待内容】株主優待割引券（100円割引券）(1) 1年未満保有(2) 1年以上保有

- 100株以上……(1) 30枚 / 3,000円相当
- 200株以上……(1) 40枚 / 4,000円相当 (2) 70枚 / 7,000円相当
- 1,000株以上……(1) 100枚 / 10,000円相当 (2) 130枚 / 13,000円相当
- 2,000株以上……(1) 150枚 / 15,000円相当 (2) 180枚 / 18,000円相当

「日本水産 <1332>」

【権利確定月】3月末

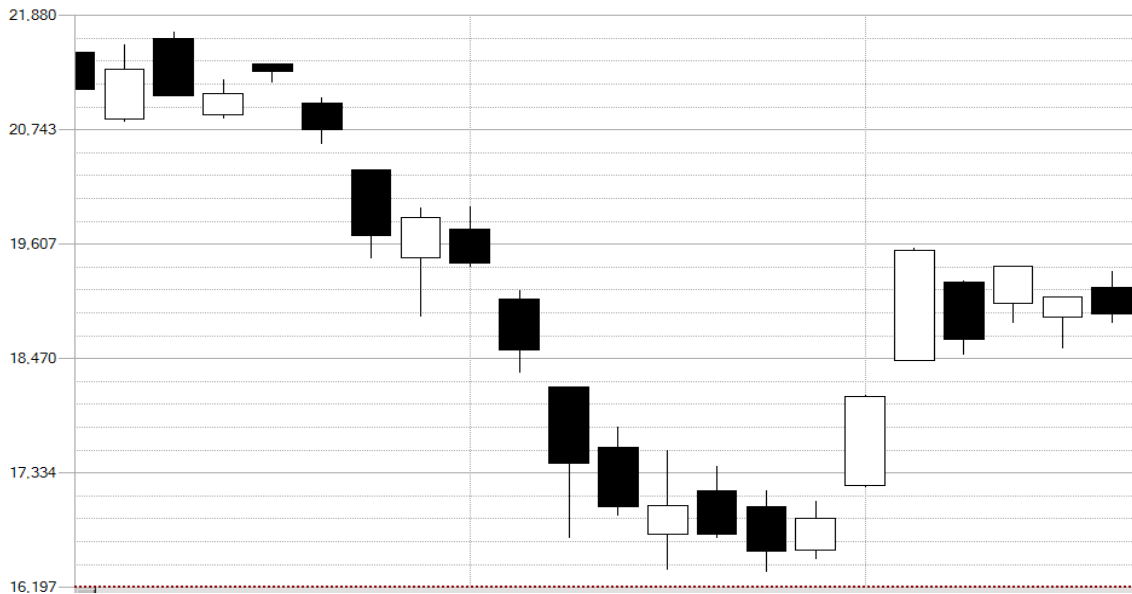
【優待内容】自社製品

- 500株以上……3,000円相当
- 1,000株以上……5,000円相当

参考資料

＜過去 3 年の日経平均株価の推移＞

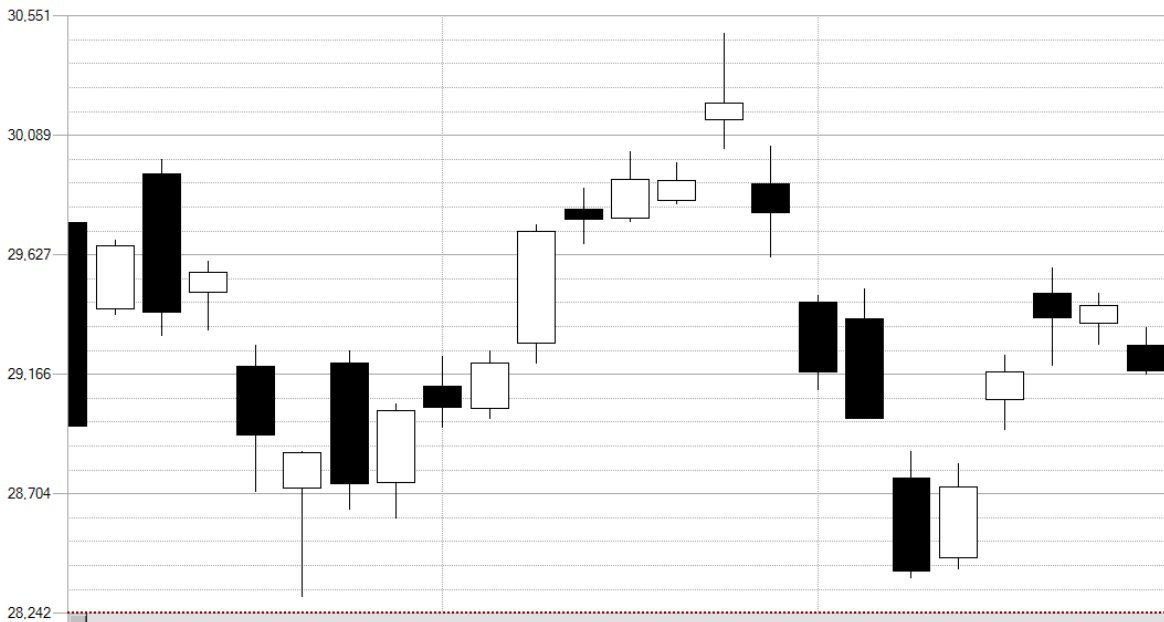
■2020 年 3 月■



新型コロナの死亡者が増加し、WHO が「パンデミック（世界的な大流行）」と宣言しました。实体经济への影響が懸念され株価は下落しました。月末にかけては金融政策決定会合において、上場投資信託の買い入れを倍増するという決定がなされたため上昇を見せました。

※※※

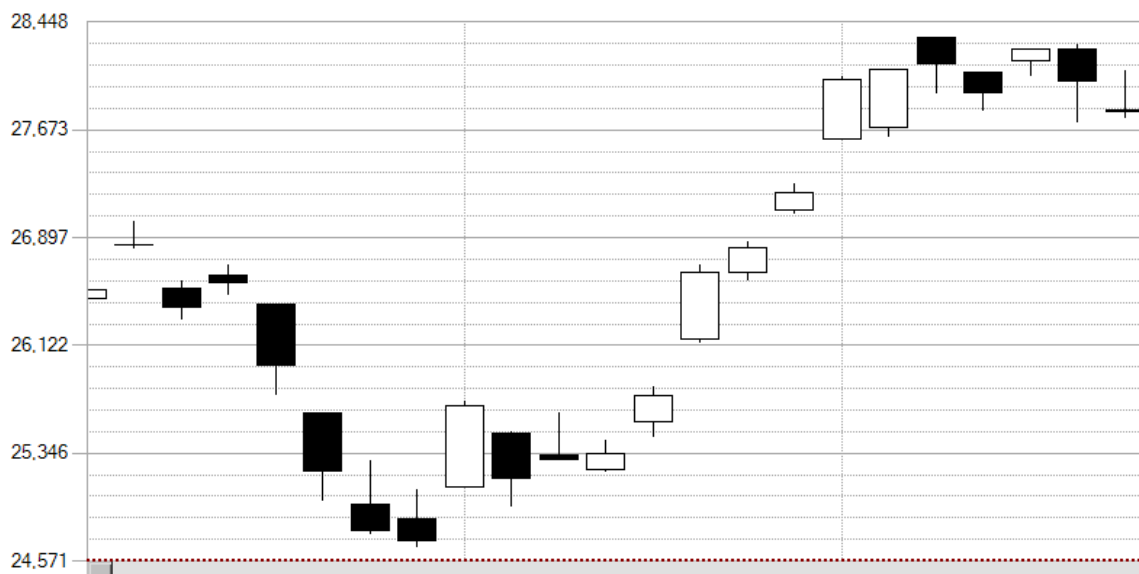
■2021 年 3 月■



2月末の急落の一因だった米長期金利の上昇が一服したなか、バイデン米政権による 1.9 兆ドルの追加経済対策の効果に期待が広がり、日経平均は 3 万円を回復する場面がありました。

※※※

■2022年3月■



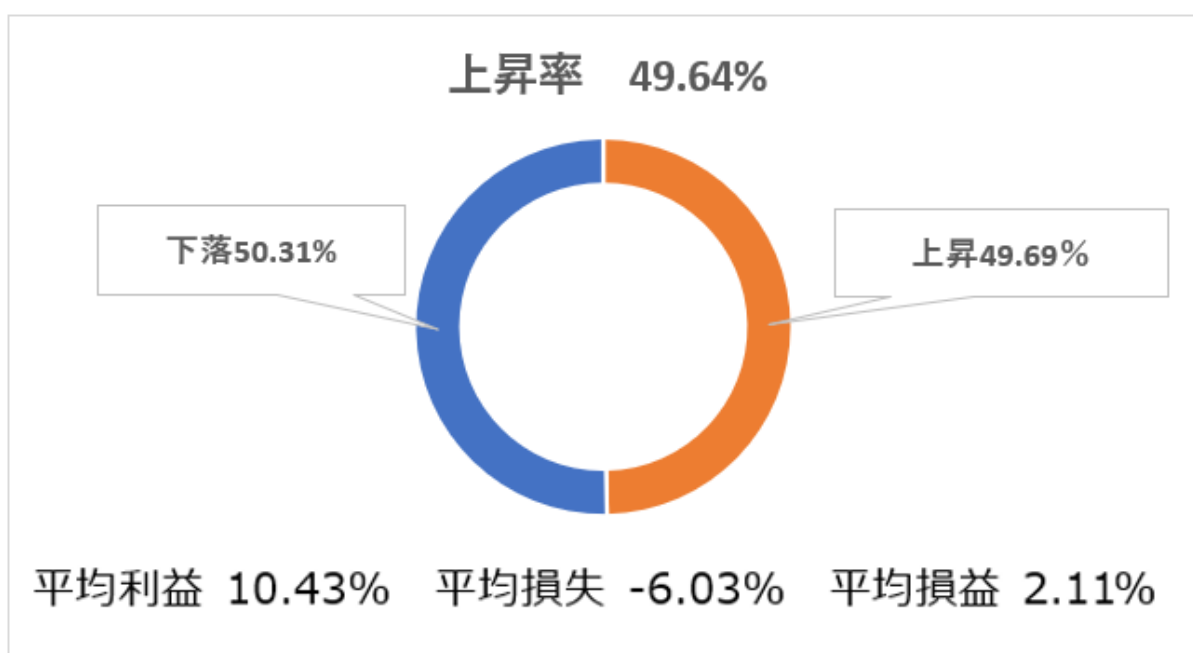
ロシアによるウクライナ侵攻の影響は予断を許さないなか、アジア株が軟調、欧州株は膠着した一方、為替が円安・ドル高に振れて日本株への買いに弾みがつきました。

※※※

1. 月別アノマリー紹介
4. 4月アノマリー

<4月の傾向と対策>

過去23年の上昇率ランキング **6位**
1年で2番目に平均損益が高い月！！

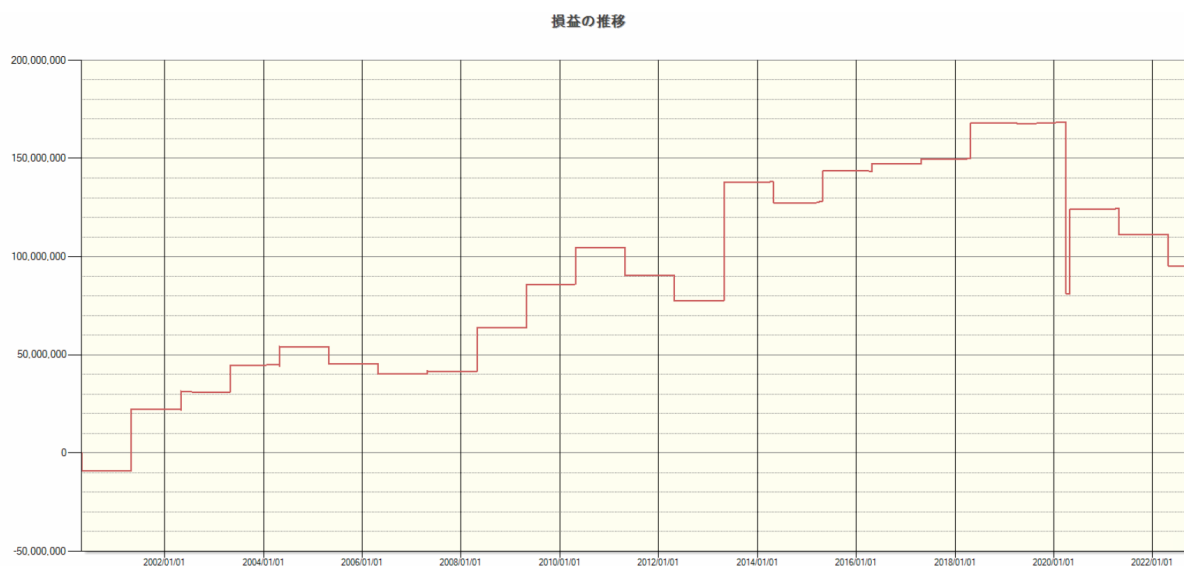


4月の相場は、3月決算企業にとって新たな会計年度を迎えることから「新年度相場」と呼ばれています。また、企業や機関投資家が3月の年度末にかけて決算対策として売り出していた株式を買い戻す傾向があることから「4月効果」とも呼ばれ、株価が上昇しやすい月と言われています。過去の株価データをみると、上昇率49.64%、平均利益10.43%、平均損失-6.03%、平均損益2.11%となっております。上昇率は5割を切っているものの、平均損益は2%を超え、1年の中で1月に続き、2番目に利益が出る月のようです。

4月が良い成績となる要因は決算に対する期待感があるからです。3月末決算企業の権利確定が終わると、投資家の注目は決算発表に移ります。その決算次第で株価は変動しますので、好決算が予想される銘柄を探しておくとい良いでしょう。

<日本株市場の傾向>

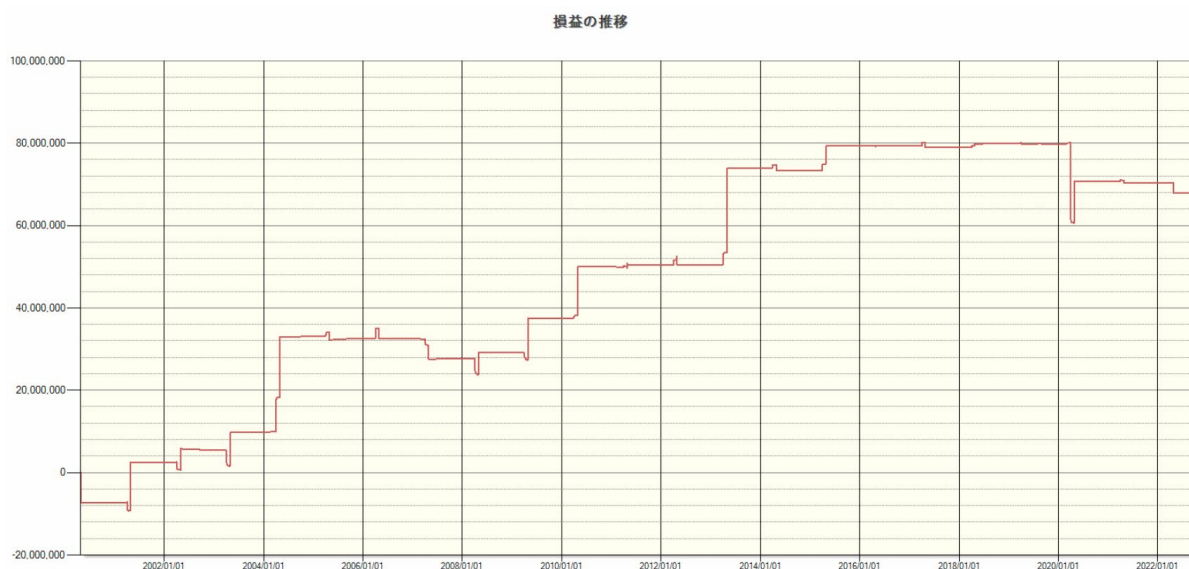
■東証1部■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証1部では、勝率51.53%、平均損益1.09%となっています。勝率は50%を越え、平均損益が1%を越えており、強い上昇傾向があります。

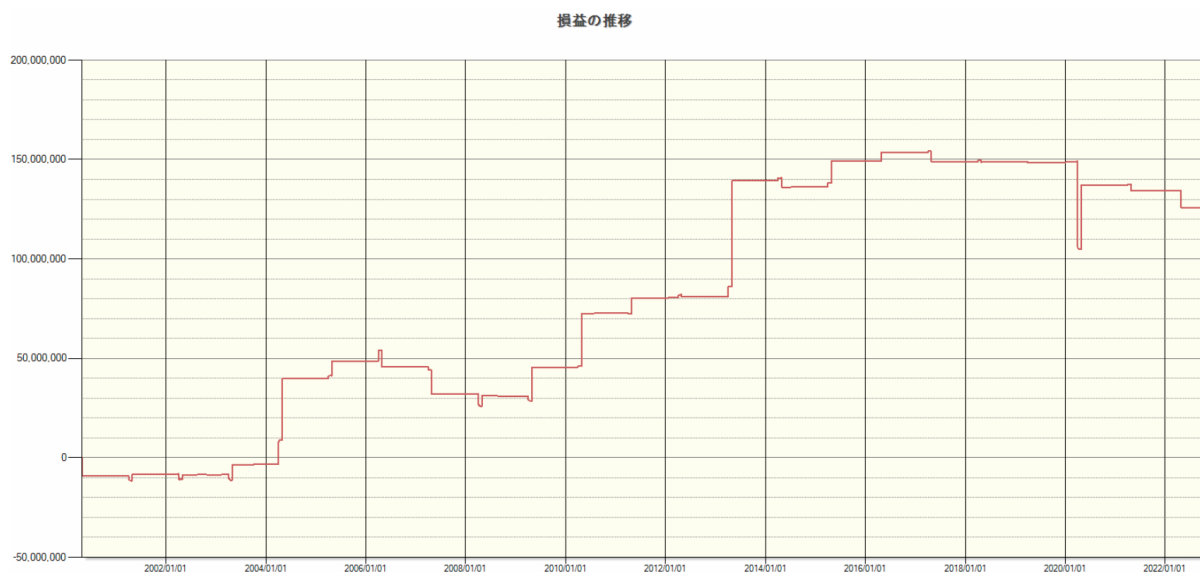
■東証2部・大証・名証■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証2部・大証・名証では勝率51.52%、平均損益2.05%となっています。勝率は50%を越え、平均損益が2%を越えており、東証1部と同様に強い上昇傾向があります。

■ ジャスダック・マザーズ ■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

ジャスダック・マザーズでは勝率 49.93%、平均損益 2.86%となっています。僅かに 50%を下回っておりますが、平均損益が約 3%であり、強い上昇傾向があります。

検証結果	トレード回数	勝率	平均損益	合計損益	PF
東証 1 部	43,562 回	51.53%	1.09%	95,249,515 円	1.388
東 2・大・名	16,510 回	51.52%	2.05%	67,766,646 円	1.557
JQ・M	21,932 回	49.93%	2.86%	125,614,710 円	1.577

市場別では、3 区分とも平均損益が 1%を越える強い上昇が確認できます。市場全体でも上昇率が 1 年の中で最も高く、株式投資に適している月といえるでしょう。4 月は 3 月末に売った株式や投資信託の買戻しをするため、このように株価が上昇しやすくなっています。

＜業種別ベスト・ワースト＞

ベスト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	造船	65.22%	4.51%
②	その他金融	65.22%	3.68%
③	海運	57.35%	3.11%
④	不動産	53.00%	2.76%
⑤	石油	65.63%	2.49%

ワースト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	空運	34.78%	-2.51%
②	鉱業	41.18%	-0.87%
③	倉庫	39.13%	-0.86%
④	ガス	39.13%	-0.03%
⑤	陸運	51.11%	0.38%

業種別で見ると、ベストの業種上位は平均損益が 3%を越えています。特に、造船・その他金融などの景気敏感株が好調です。

＜勝率が高い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	産業ファンド投資法人(3249)	93.33%	5.31%
②	ゼネラルパッカー(6267)	92.86%	5.08%
③	シベール(2228)	91.67%	1.05%
④	エイボン・プロダクツ(4915)	90.91%	9.44%
⑤	三菱レイヨン(3404)	90.91%	6.44%
⑥	NECトーキン(6759)	90.00%	9.85%
⑦	BRUNO(3140)	90.00%	6.36%
⑧	B-R サーティワンアイスクリーム(2268)	90.00%	3.22%
⑨	マネースクウェアHD(8728)	88.89%	12.26%
⑩	愛光電気(9909)	88.89%	10.07%

＜勝率が低い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	トーエル(3361)	5.56%	-7.59%
②	国際ETF VIX短期先物指数(1552)	8.33%	-6.24%
③	リブセンス(6054)	9.09%	-0.01%
④	スターフライヤー(9206)	9.09%	-3.38%
⑤	東洋電機(6655)	9.09%	-3.79%
⑥	イーランド(3294)	11.11%	-3.43%
⑦	エンバイオ・ホールディングス(6092)	11.11%	-7.33%
⑧	cotta(3359)	12.50%	9.72%
⑨	レアジョブ(6096)	12.50%	-2.07%
⑩	エヌエス環境(4675)	12.50%	-2.22%

※上記は過去 23 年のデータであり上場廃止銘柄も多く含まれていますのでご注意ください。

<注目優待>

「東和フードサービス <3329>」

【権利確定月】4月末、10月末

【優待内容】優待食事券500円券

- 100株以上：3枚（4月末）、2枚（10月末）
- 200株以上：4枚（4月末）、3枚（10月末）
- 400株以上：7枚（4月末、10月末）
- 800株以上：14枚（4月末、10月末）
- 2,400株以上：24枚（4月末、10月末）
- 4,000株以上：36枚（4月末、10月末）

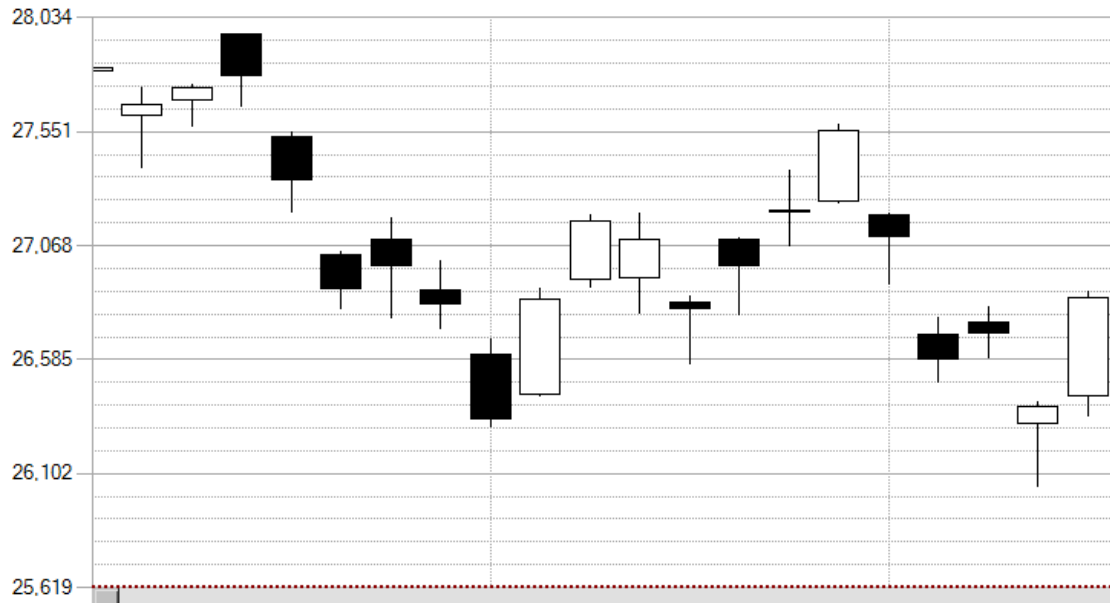
「トーエル <3361>」

【権利確定月】4月末、10月末

【優待内容】自社取扱商品（ピュアウォーターなど）

- 500株以上……1,500円相当の自社取扱商品
- 1,000株以上……3,000円相当の自社取扱商品

■2022年4月■



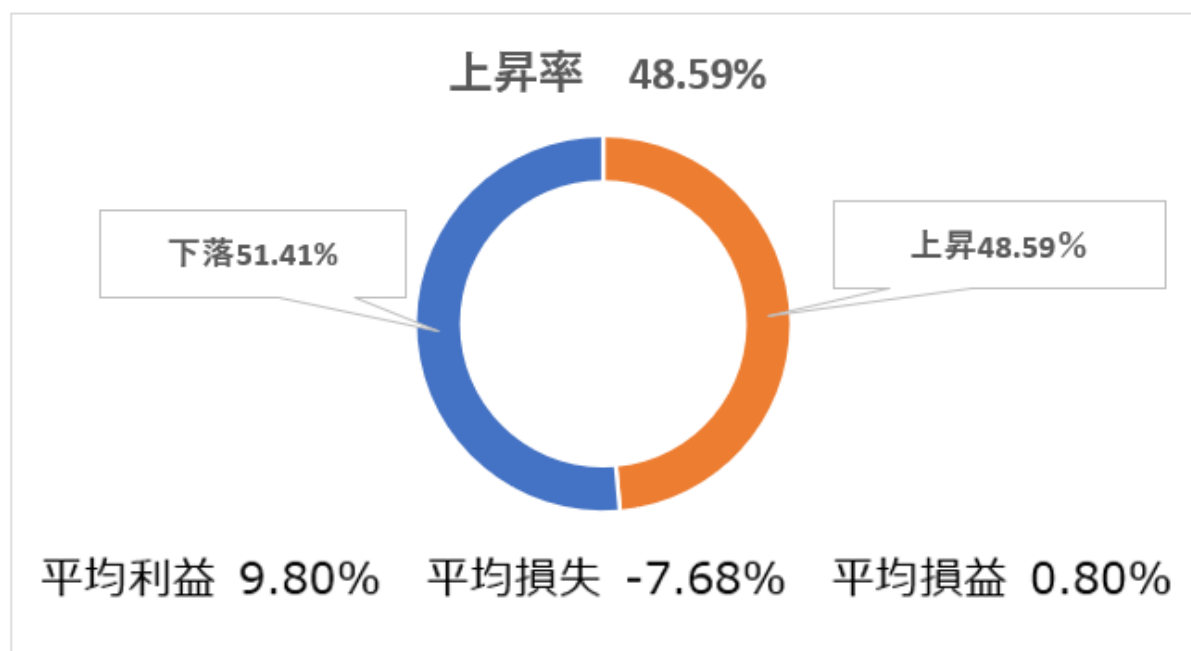
米国でインフレ抑制へのさらなる金融引き締め観測から金利が上昇して株価が大きく調整しました。この波及に加え、中国での新型コロナウイルス感染拡大による景気減速懸念もあり、日経平均も軟調に推移しました。

※※※

1. 月別アノマリー紹介
5. 5月アノマリー

<5月の傾向と対策>

過去23年の上昇率ランキング **7位**
新興市場が好調！！



5月は3月決算企業の通期決算の発表が本格化します。決算の内容しだいで株価が大きく変動する銘柄も見られるでしょう。過去の株価データをみると、上昇率48.59%、平均利益9.80%、平均損失-7.68%、平均損益0.80%となっています。4月に比べ上昇率が下がっていますが平均損益はプラスとなっており、4月に引き続き上昇傾向が確認できます。

大型株の決算発表では保守的な業績予想を出すため、失望売りや利益確定売りが出やすく、売り優勢の展開になりやすいでしょう。一方で中小型株では、個人投資家が決算に期待した買いを行うため買いが増加します。このように5月は市場ごとで傾向が異なりますので注意が必要です。過去の傾向から考えると、小型株を中心とした戦略をとるとよいでしょう。

<日本株市場の傾向>

■東証1部■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証1部では、勝率49.60%、平均損益0.56%となっています。勝率は50%を下回っていますが、平均損益はプラスとなっており、上昇傾向があります。

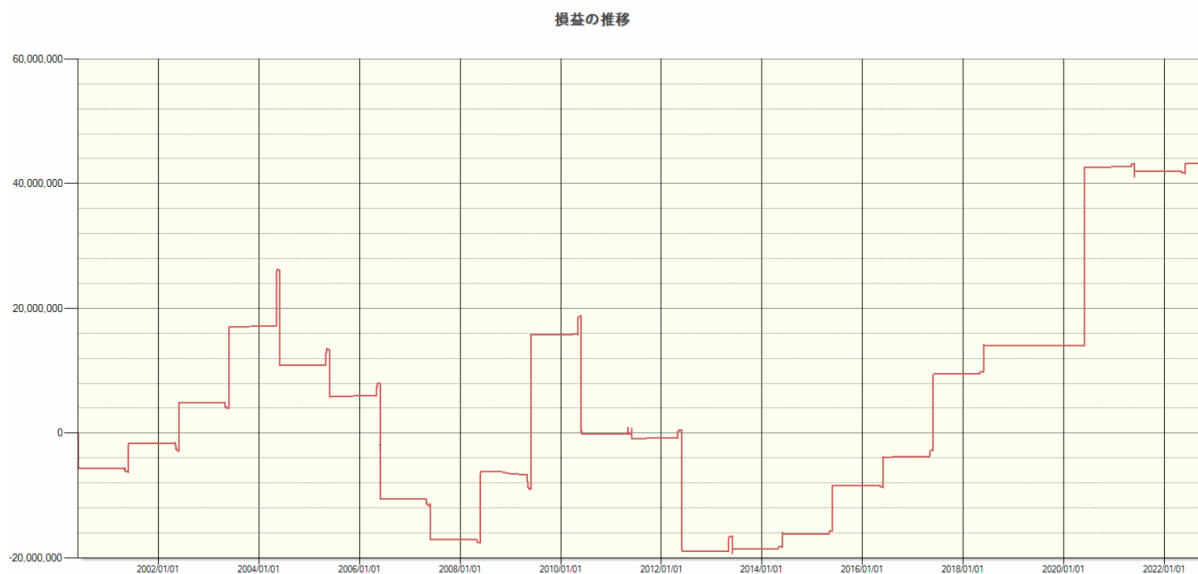
■東証2部・大証・名証■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証2部・大証・名証では勝率45.75%、平均損益0.60%となっています。東証1部と同様に勝率は50%を下回っていますが、平均損益がプラスとなっており、上昇傾向があります。

■ ジャスダック・マザーズ ■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

ジャスダック・マザーズでは勝率 46.23%、平均損益 1.03%となっています。勝率は50%を下回っていますが、平均損益が1%を越えており、強い上昇傾向があります。

検証結果	トレード回数	勝率	平均損益	合計損益	PF
東証 1 部	38,674 回	49.60%	0.56%	45,493,978 円	1.163
東 2・大・名	15,978 回	45.75%	0.60%	19,104,200 円	1.151
JQ・M	21,030 回	46.23%	1.03%	43,271,550 円	1.202

市場別では、3 区分とも平均損益がプラスとなっており、市場全体で株価は上昇する傾向があります。特にジャスダック・マザーズでは平均損益が1%を超える強い上昇となりました。5月は3月決算企業の通期決算の発表が本格化する月ですので、株価は決算の内容によって大きく変動します。過去の傾向と合わせて、決算の内容にも注目しておきましょう。

＜業種別ベスト・ワースト＞

ベスト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	その他製造	60.00%	2.69%
②	海運	66.15%	2.46%
③	機械	53.89%	1.78%
④	精密機器	52.73%	1.53%
⑤	自動車	52.05%	1.47%

ワースト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	倉庫	36.36%	-2.06%
②	繊維	44.83%	-1.41%
③	鉱業	43.75%	-1.09%
④	サービス	44.44%	-0.98%
⑤	通信	54.47%	-0.53%

業種別でみると、ベストの業種は4月と比べ平均損益が大幅に低くなっていますが、平均損益は1%を越えています。

＜勝率が高い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	イハラサイエンス(5999)	94.74%	13.82%
②	ソーバル(2186)	91.67%	3.53%
③	ティーライフ(3172)	90.00%	7.00%
④	日本コンセプト(9386)	88.89%	10.28%
⑤	ウイン・パートナーズ(3183)	88.89%	8.62%
⑥	東セロ(3971)	88.89%	8.37%
⑦	積水工機製作所(6487)	88.89%	6.16%
⑧	日本デコラックス(7950)	88.89%	2.28%
⑨	オープンインタフェース(4302)	87.50%	31.79%
⑩	クロス・マーケティンググループ(3675)	87.50%	15.92%

＜勝率が低い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	アスカ(7227)	6.67%	-3.87%
②	ヴィンクス(3784)	8.33%	-7.22%
③	夢テクノロジー(2458)	8.33%	-7.23%
④	ドワンゴ(3715)	9.09%	-11.43%
⑤	小津産業(7487)	9.09%	-9.09%
⑥	リベステ(8887)	9.52%	-7.74%
⑦	新立川航空機(5996)	10.00%	-2.68%
⑧	タクトホーム(8915)	10.00%	-7.03%
⑨	エプソントヨコム(6708)	10.00%	-7.10%
⑩	相模ハム(2289)	11.11%	-5.33%

※上記は過去23年のデータであり上場廃止銘柄も多く含まれていますのでご留意下さい。

<注目優待>

「サカタのタネ <1377>」

【権利確定月】5月末日

【優待内容】株主優待カタログ商品

- 100株……株主優待カタログ商品（Aコース ex.コシヒカリ 1.5kg）
- 300株……株主優待カタログ商品（Bコース ex.コシヒカリ 3.5kg）
- 1,000株……株主優待カタログ商品（Cコース ex.コシヒカリ 5kg）

「TAKARA&COMPANY <7921>」

【権利確定月】5月末日

【優待内容】ギフト券

【3年未満保有株主】

- 100株以上……1,500円相当
- 2,000株以上……3,000円相当

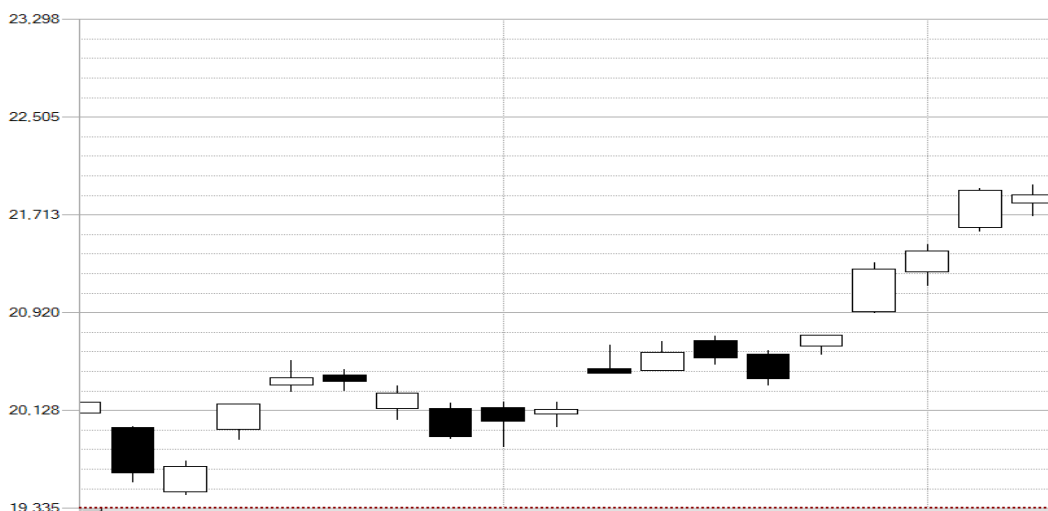
【3年以上保有株主】

- 100株以上……2,000円相当
- 2,000株以上……3,500円相当

参考資料

〈過去3年の日経平均株価の推移〉

■2020年5月■



経済活動の段階的な再開への期待感が高まり上昇しました。日経平均株価は約2か月半ぶりに高値水準で月末を迎えることができました。

※※※

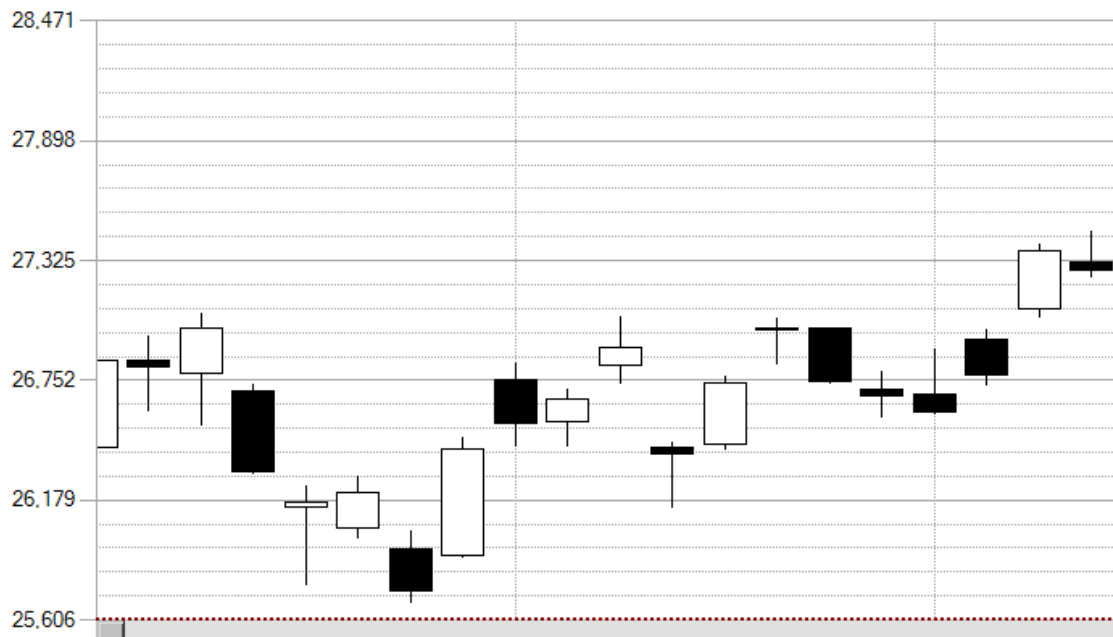
■2021年5月■



中旬に世界的な株安の影響で2万7000円台前半まで急落しましたが、日本でも新型コロナウイルスのワクチン接種が始まり、景気回復期待から国内投資家の押し目買いによって、月末にかけて2万9000円台を回復しました。

※※※

■2022年5月■



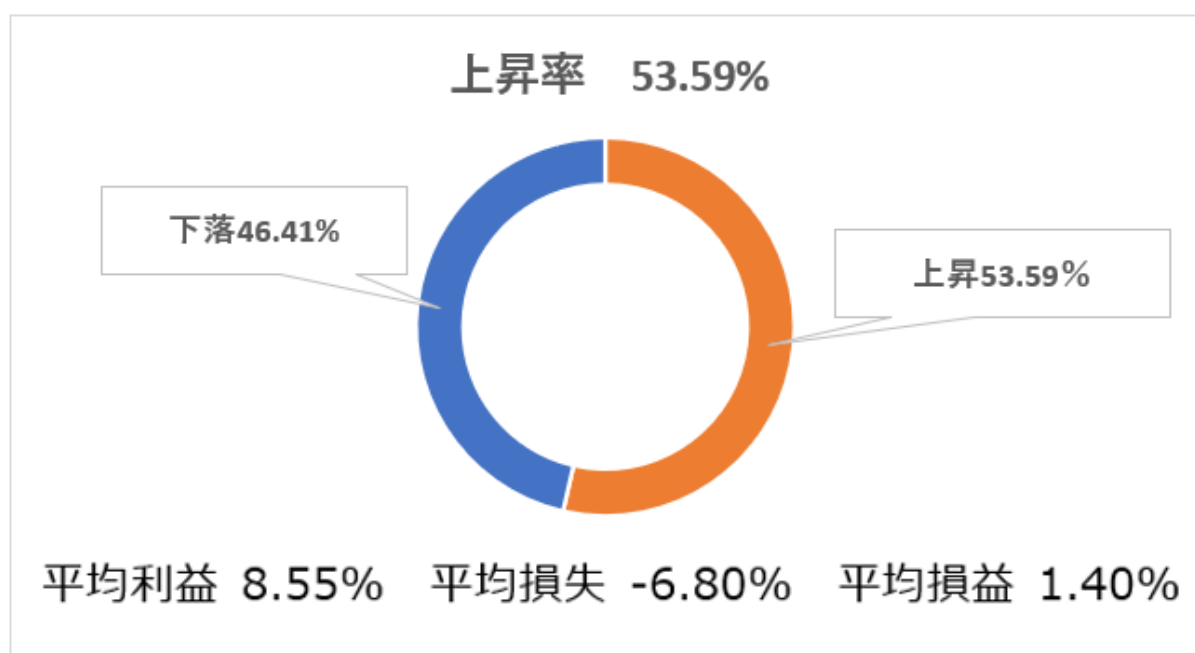
4月の消費者物価指数が市場予想を上回り、金融引き締め懸念から株が売られていたが、月末にかけて、米国でインフレ懸念が後退したため米国株が持ち直し、日経平均も買い戻されました。

※※※

1. 月別アノマリー紹介
6. 6月アノマリー

<6月の傾向と対策>

過去 23 年の上昇率ランキング **3 位**
個人投資家の動きが活発化！！

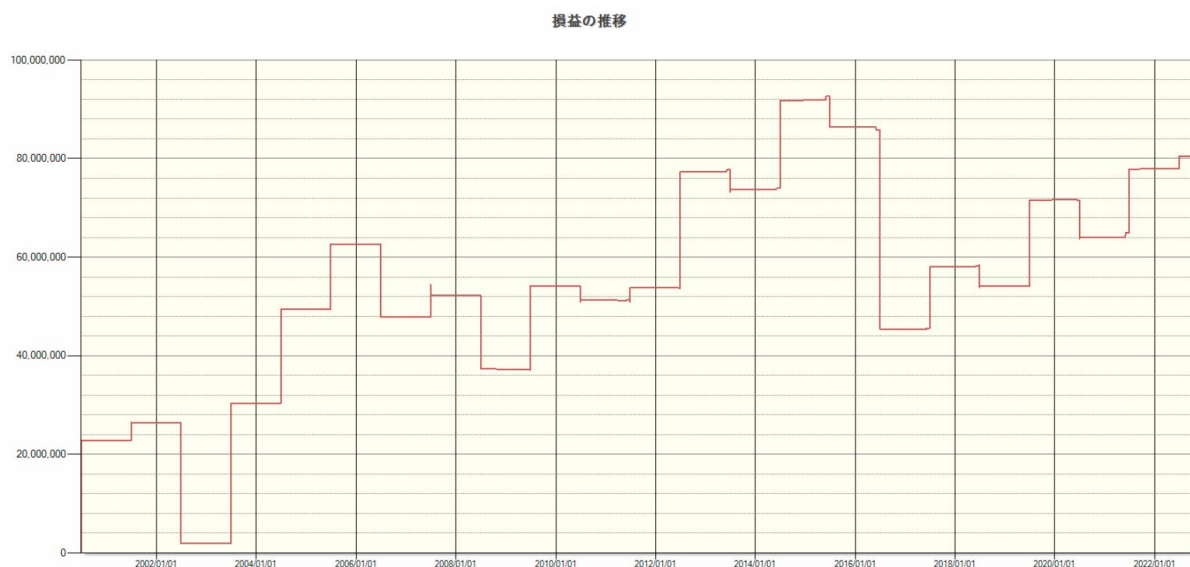


6月はボーナス月であるため個人投資家の手元資金が潤沢になり、株価が上がりやすい月といわれています。また3月決算企業の決算発表が出揃うため、個人投資家の動きが活発になります。過去の株価データをみると、上昇率 53.59%、平均利益 8.55%、平均損失 -6.80%、平均損益 1.40%となっており、1年の中でも3番目に高い上昇率となっています。

投資家が注意したいのは、「その企業の決算が市場の予想と比べてどうだったか」です。足元の業績も大事ですが今後の動向を考えると、発表と市場の予想の比較が重要です。決算が市場の予想よりも良かった銘柄は上昇する可能性が高いため、そういった銘柄をチェックすると良いでしょう。

<日本株市場の傾向>

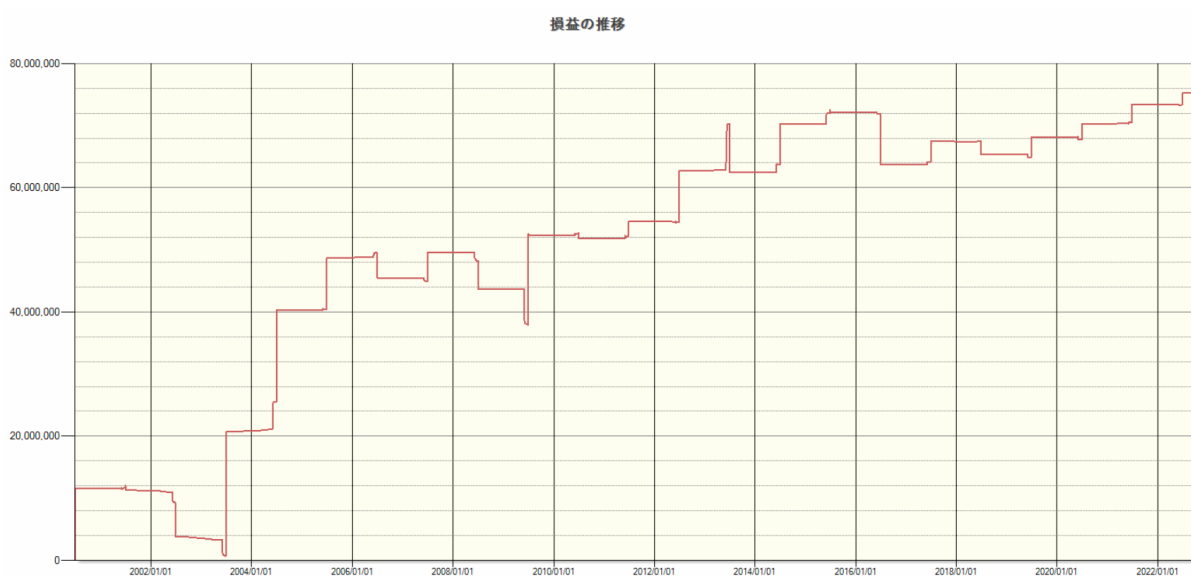
■東証1部■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証1部では、勝率 53.64%、平均損益 0.93%となっています。勝率は50%を越え、平均損益がプラスとなっており、上昇傾向があります。

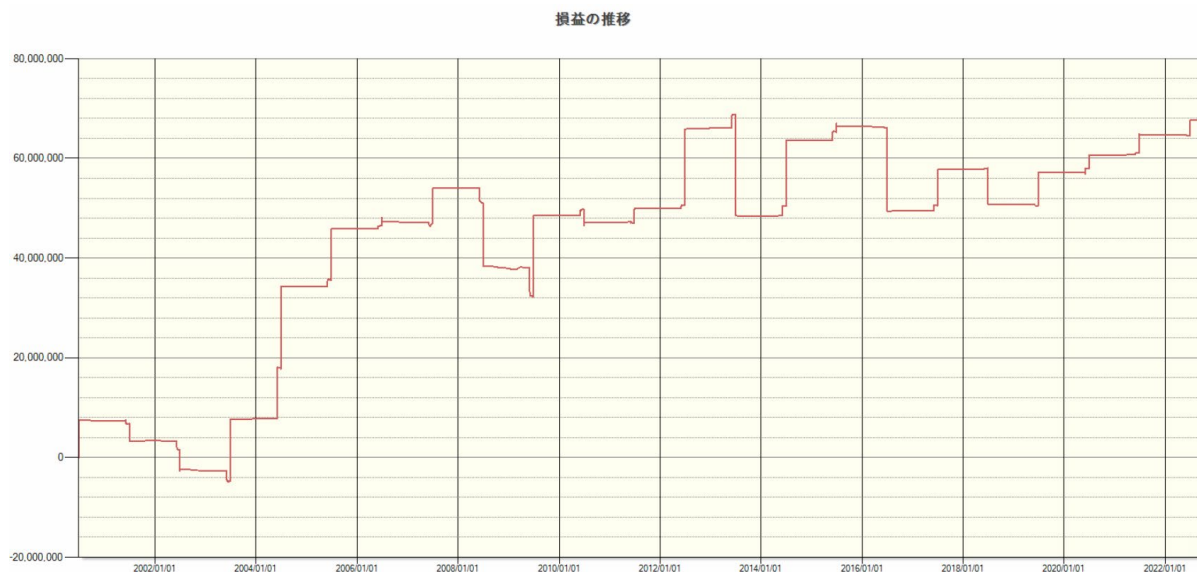
■東証2部・大証・名証■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証2部・大証・名証では勝率 55.49%、平均損益 2.27%となっています。勝率は50%を越え、平均損益が2%を越えており、強い上昇傾向があります。

■ ジャスダック・マザーズ ■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

ジャスダック・マザーズでは勝率 50.62%、平均損益 1.54%となっています。他の市場と同様に勝率は 50%を越え、平均損益が 1%を越えており、強い上昇傾向があります。

検証結果	トレード回数	勝率	平均損益	合計損益	PF
東証 1 部	43,329 回	53.64%	0.93%	80,467,268 円	1.333
東 2・大・名	16,576 回	55.49%	2.27%	75,294,038 円	1.744
JQ・M	21,999 回	50.62%	1.54%	67,666,561	1.354

市場別では、3 区分とも平均損益がプラスとなっており、株価が上がりやすい月といえるでしょう。東証 2 部・大証・名証、ジャスダック・マザーズでは平均損益が 1%を越える強い上昇が確認できます。5 月に比べ平均損益は良くなりました。6 月は 5 月に売られた株式の買戻しが行われるため、株価は上昇しやすくなっています。

＜業種別ベスト・ワースト＞

ベスト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	食品	57.61%	1.37%
②	医薬品	51.34%	1.23%
③	鉄道・バス	60.99%	1.09%
④	倉庫	52.17%	0.84%
⑤	建設	54.77%	0.83%

ワースト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	鉱業	35.29%	-2.62%
②	鉄鋼	41.05%	-1.40%
③	保険	44.09%	-1.16%
④	商社	43.31%	-0.61%
⑤	その他製造	43.48%	-0.53%

業種別でみると、ベストの業種は5月と比べ平均損益が低くなり、また平均損益は1%を下回る業種が増えています。

＜勝率が高い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	トランザクション(7818)	91.67%	8.95%
②	九電工(1959)	91.30%	4.48%
③	ひまわりホールディングス(8738)	90.91%	11.84%
④	フジフーズ(2913)	90.91%	12.84%
⑤	日本レチボン(5389)	90.91%	2.31%
⑥	福留ハム(2291)	90.48%	5.76%
⑦	日伝(9902)	90.48%	5.59%
⑧	ダイショー(2816)	90.48%	2.52%
⑨	大丸エナウィン(9818)	90.00%	5.03%
⑩	東洋クロス(3552)	90.00%	8.43%

＜勝率が低い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	キングジム(7962)	8.70%	-3.29%
②	PGMホールディングス(2466)	10.00%	-2.52%
③	日本トイザラス(7645)	11.11%	-1.50%
④	アライドアーキテクツ(6081)	11.11%	-4.96%
⑤	太陽商会(2447)	11.11%	-14.05%
⑥	ランシステム(3326)	11.11%	-9.72%
⑦	アトラグループ(6029)	12.50%	0.20%
⑧	WisdomTree 農産物上場投資信託(1687)	12.50%	-2.80%
⑨	機動建設工業(1774)	12.50%	-4.20%
⑩	イード(6038)	12.50%	-5.18%

※上記は過去23年のデータであり上場廃止銘柄も多く含まれていますのでご注意ください。

<注目優待>

「日本マクドナルドホールディングス <2702>」

【権利確定月】6月末、12月末

【優待内容】バーガー類、サイドメニュー、飲み物の商品引換券
(6枚ずつで1冊)

- 100~299株：1冊
- 300~499株：3冊
- 500株以上：5冊

「東急レクリエーション <9631>」

【権利確定月】6月末、12月末

【優待内容】株主優待カードのポイント付与およびファミリーカードの発行

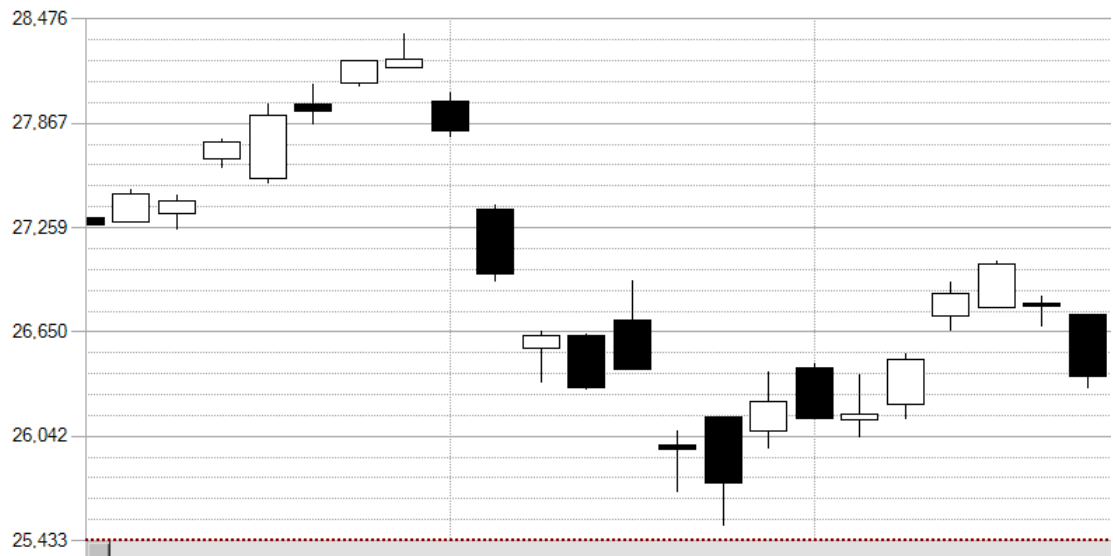
(1) 株主優待カードの発行およびポイント付与

- 200株以上：18ポイント
- 400株以上：24ポイント
- 600株以上：30ポイント
- 1,000株以上：36ポイント
- 2,000株以上：42ポイント
- 6,000株以上：48ポイント
- 10,000株以上：54ポイント
- 20,000株以上：60ポイント

(2) ファミリーカード発行

- 600株以上：1枚
- 2,000株以上：2枚
- 6,000株以上：3枚

■2022年6月■



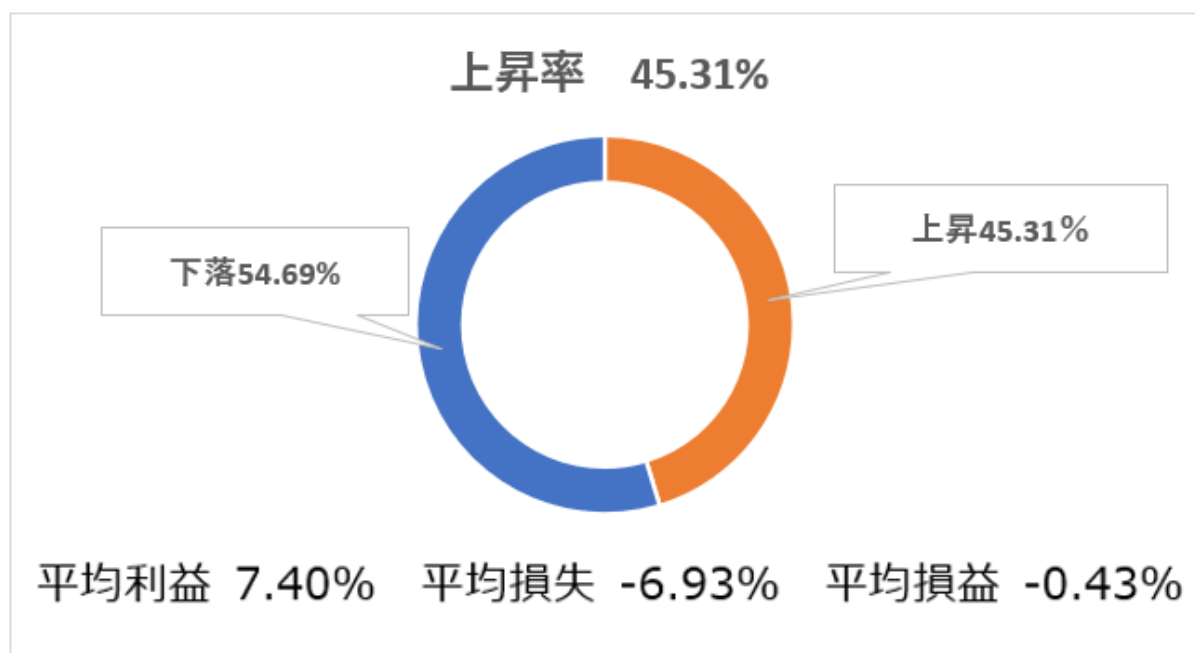
CPIの市場予想を上回る上昇を受けたFRBなど、米欧の各国中銀のインフレ抑制に向けた利上げ発表が相次いだ結果、米国の主要株価指数がきつい下げとなり、日本株も売られました。

※※※

1. 月別アノマリー紹介
7. 7月アノマリー

<7月の傾向と対策>

過去23年の上昇率ランキング **10位**
相場全体で株価は下落しやすい月



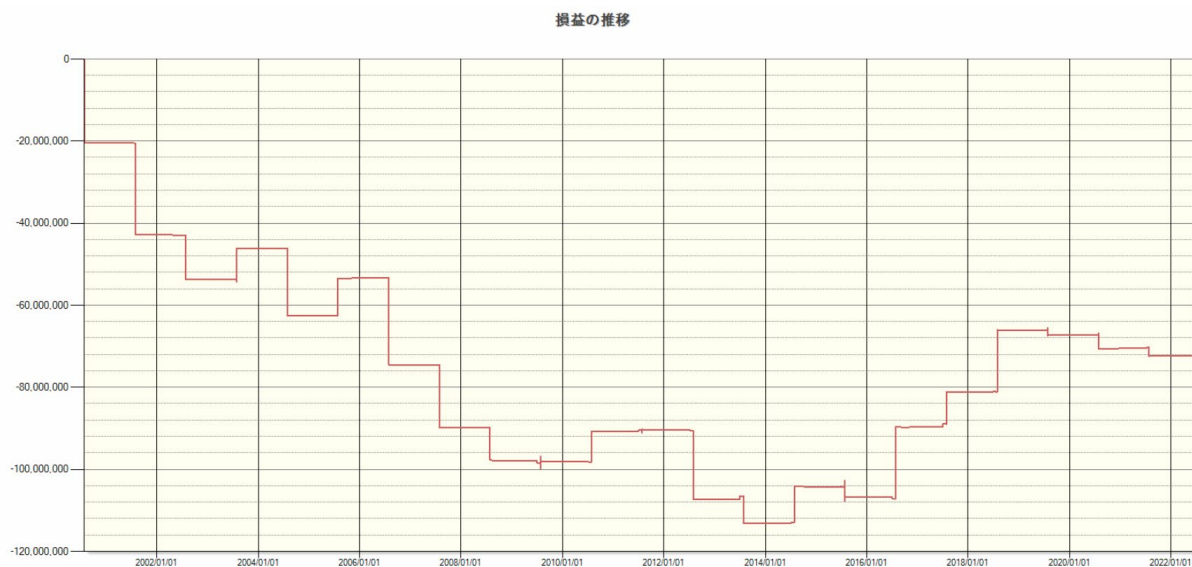
7月は本格的な「夏枯れ相場」となります。7月相場は新たな株価材料が乏しいため閑散としやすく、株価が下がりやすい時期といわれています。過去の株価データをみると、上昇率45.31%、平均利益7.40%、平均損失-6.93%、平均損益-0.43%となっており、1年の中で3番目に低い上昇率となっています。平均損益はマイナスとなっており、下落傾向が確認できます。

7月の株価が下がりやすい要因として考えられるのは、6月に多くの企業の決算が出揃い株主総会も終わるため、7月はこれといった大きなニュースが出にくい時期にあたります。そのため、株式市場は下落する傾向にあるのではないのでしょうか。

このように7月は株価が下がりやすい傾向にありますが、7月は優待権利確定日を9月に控えている銘柄に個人投資家の注目が集まります。ですので、そのような銘柄を権利確定の9月に向けて先回りして買っておくといよいでしょう。

<日本株市場の傾向>

■東証 1 部■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証 1 部では、勝率 45.32%、平均損益-0.66%となっています。平均損益がマイナスとなっており、株価は下がりやすくなっています。

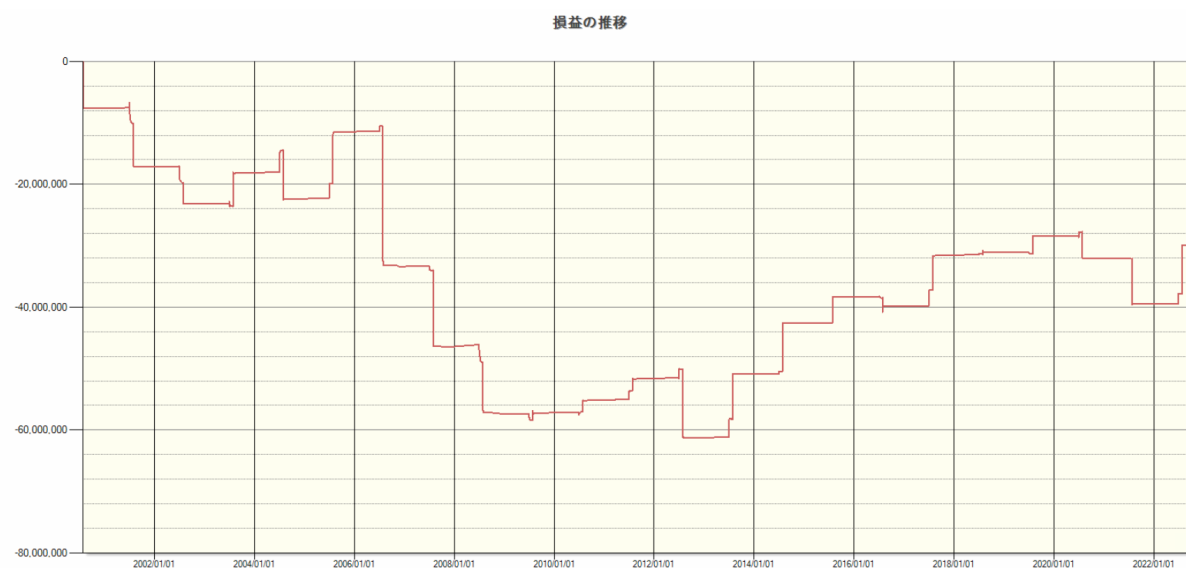
■東証 2 部・大証・名証■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証 2 部・大証・名証では勝率 44.63%、平均損益-0.25%となっています。平均損益がマイナスとなっており、株価は下がりやすくなっています。

■ ジャスダック・マザーズ ■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

ジャスダック・マザーズでは勝率 44.36%、平均損益-0.67%となっています。他の市場と同様に平均損益がマイナスとなっており、株価は下がりやすくなっています。

検証結果	トレード回数	勝率	平均損益	合計損益	PF
東証 1 部	43,350 回	45.32%	-0.66%	-56,841,433 円	0.799
東2・大・名	16,727 回	44.63%	-0.25%	-8,488,950 円	0.935
JQ・M	22,286 回	44.36%	-0.67%	-29,850,762 円	0.861

市場別では、3 区分とも平均損益がマイナスとなっており、市場全体で株価が下がりやすくなっています。下落要因は、3 月期決算企業の決算発表が 6 月に一巡し、株価材料が少ない月であるため、積極的な買いが入りにくいと考えられます。そのため、7 月の株価はどの市場でも下落する傾向があります。

<業種別ベスト・ワースト>

ベスト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	石油	53.13%	1.03%
②	ゴム	50.00%	0.29%
③	パルプ・紙	54.39%	0.22%
④	医薬品	51.61%	0.20%
⑤	精密機器	48.25%	-0.05%

ワースト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	倉庫	36.23%	-2.15%
②	海運	36.76%	-2.03%
③	鉱業	41.18%	-1.65%
④	造船	47.83%	-1.63%
⑤	繊維	41.38%	-1.56%

業種別で見ると、ベストの業種において、1位の石油以外は平均損益が1%を下回っており、苦しい相場となっています。

<勝率が高い銘柄>

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	ミライト・ワン(7818)	91.67%	3.14%
②	上場インデックスファンド海外先進国株式(1959)	91.67%	2.05%
③	マルヨシセンター(8738)	90.91%	9.75%
④	IHI運搬機械(2913)	90.91%	4.31%
⑤	NEXT FUNDS NASDAQ-100(R)(5389)	90.91%	3.56%
⑥	MAXIS 海外株式上場投信(2291)	90.91%	2.08%
⑦	買取王国(9902)	90.00%	8.08%
⑧	ワイン・パートナーズ(2816)	90.00%	5.00%
⑨	NEXT FUNDS ダウ・ジョーンズ工業株30種平均株価(9818)	90.00%	1.71%
⑩	三井金属エンジニアリング(3552)	89.47%	2.02%

<勝率が低い銘柄>

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	NEXT FUNDS 金融(TOPIX-17)上場投信(7962)	7.14%	-2.98%
②	アジア債券(2466)	7.69%	-1.34%
③	旭テック(7645)	8.33%	-5.43%
④	トヨーコーケン(6081)	8.33%	-8.20%
⑤	メディカルネット(2447)	8.33%	-13.00%
⑥	トーホー(3326)	8.70%	-3.19%
⑦	オリエンタル白石(6029)	9.09%	-3.33%
⑧	東電通(1687)	9.09%	-5.21%
⑨	シンバイオ製薬(1774)	9.09%	-6.19%
⑩	シルバー精工(6038)	9.09%	-11.81%

※上記は過去23年のデータであり上場廃止銘柄も多く含まれていますのでご留意下さい。

<注目優待>

「稲葉製作所 <3421>」

【権利確定月】1月末、7月末

【優待内容】 図書カード

—7月末

- 100株以上 図書カード 1000円分
- 300株以上 図書カード 3000円分または地域特産品
- 1000株以上 図書カード 3000円分または地域特産品

—1月末

- 1000株以上 図書カード 1000円分

「きんえい <9636>」

【権利確定月】7月末、1月末

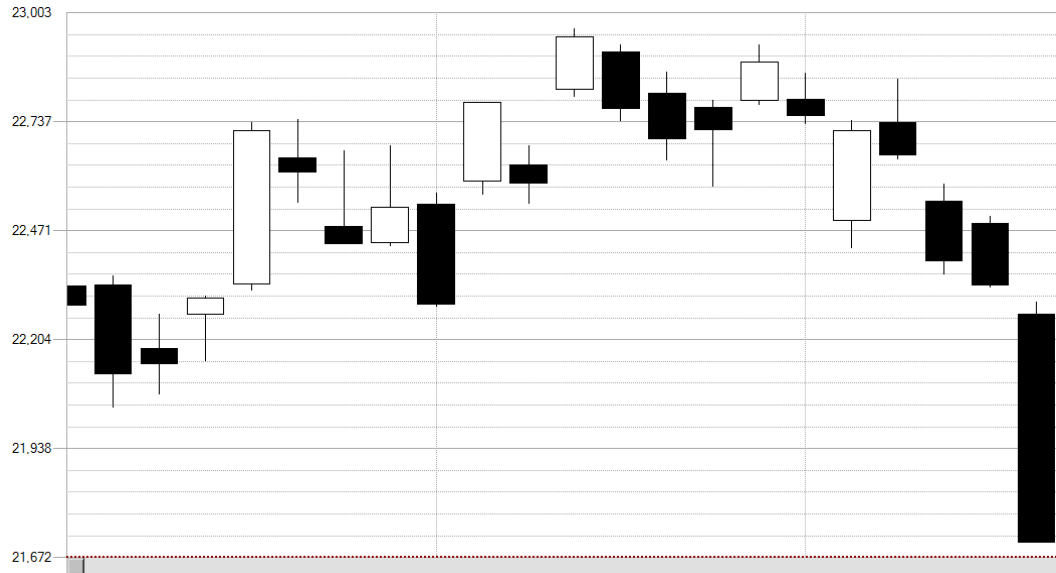
【優待内容】 映画招待カード（月間利用回数）

- 75株以上 1回
- 150株以上 2回
- 300株以上 4回
- 450株以上 6回
- 750株以上 10回
- 1,050株以上 14回

参考資料

＜過去 3 年の日経平均株価の推移＞

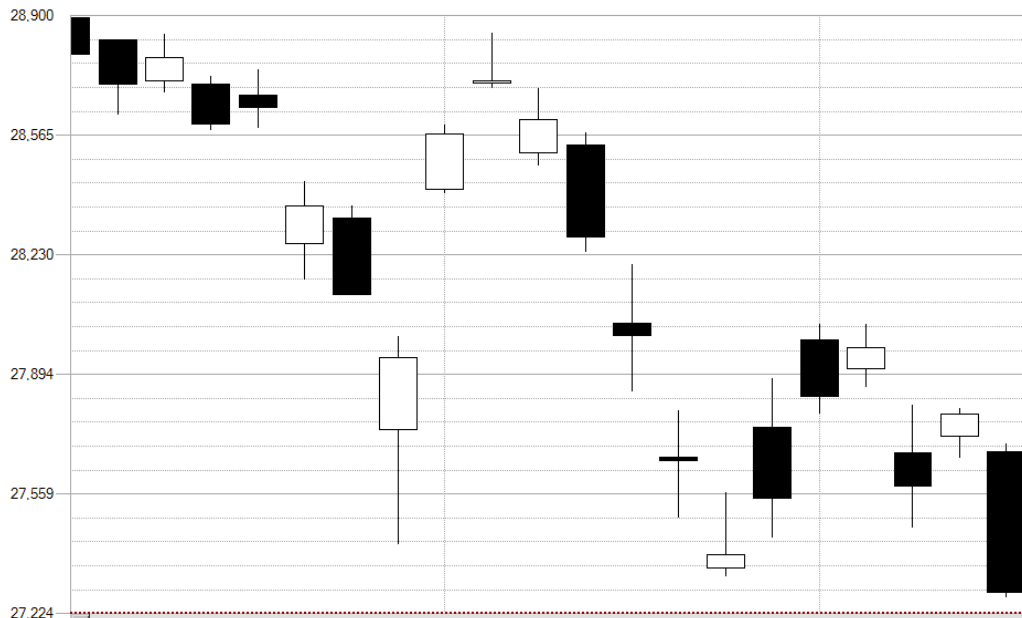
■2020 年 7 月■



下旬にかけ、主要企業の4～6月期の決算発表が相次ぎ、新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動の停滞懸念先行きの業績悪化を示した銘柄の軟調が目立ちました。

※※

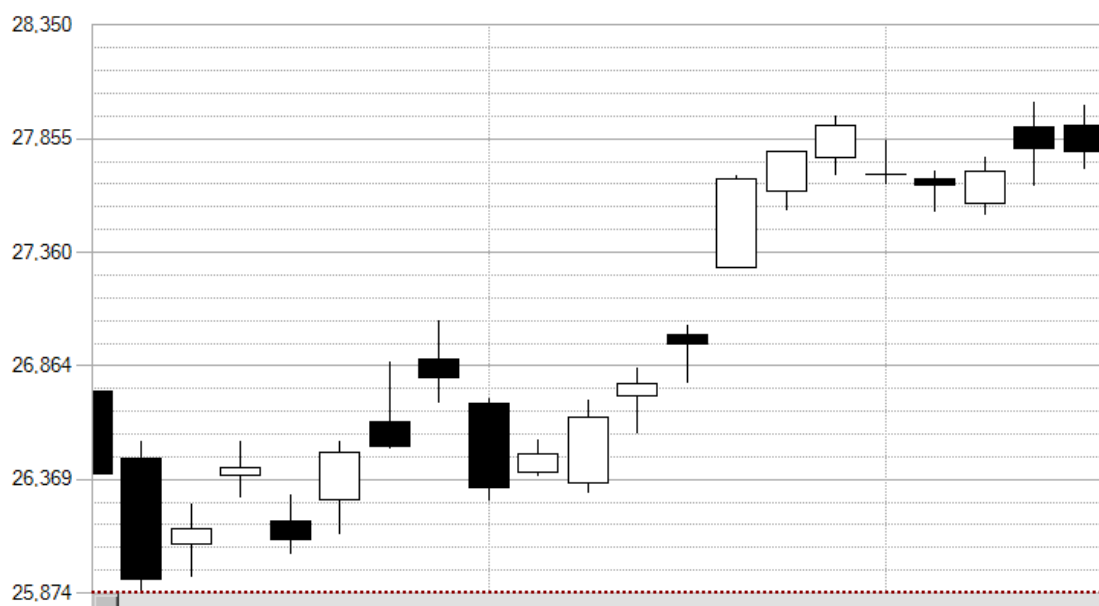
■2021 年 7 月■



新型コロナウイルスの感染が東京都で月末にかけて1日あたり3000人を超える勢いで増え、経済の正常化が後退するとの見方が強まったため売りが優勢でした。

※※

■2022年7月■



FRB が FOMC で市場予想に沿った 0.75%の大幅利上げを決めました。一方で今後の利上げペースの鈍化を示唆し、市場では米国株に追い風と受け止められて日本株にも買いが波及しました。

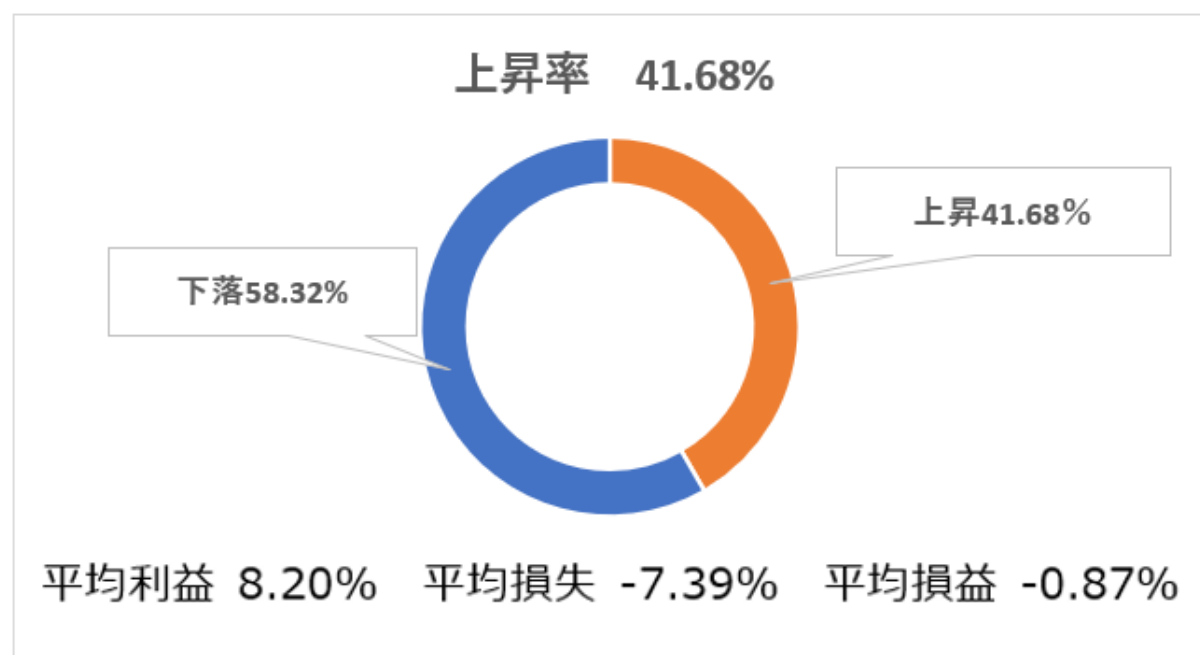
※※※

1. 月別アノマリー紹介

8. 8月アノマリー

<8月の傾向と対策>

過去23年の上昇率ランキング **12位**
1年で最も銘柄が下がりやすい月！！



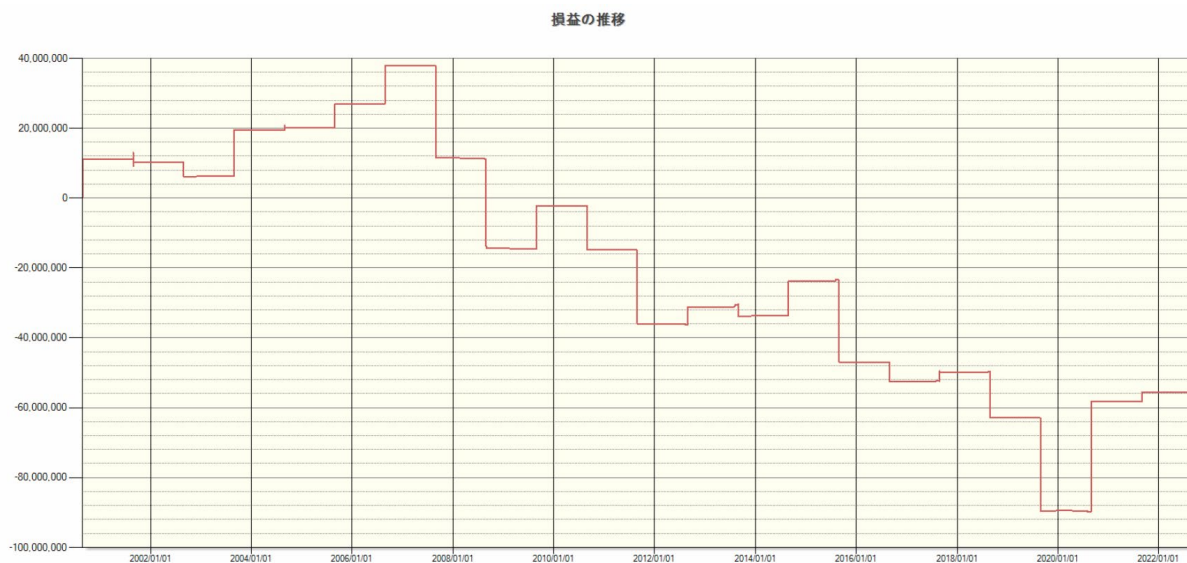
8月は『夏枯れ相場』や『お盆の閑散相場』と呼ばれており、1年の中で最も株価が下がりやすい月です。過去の株価データをみると、上昇率41.68%、平均利益8.20%、平均損失-7.39%、平均損益-0.87%となっており、1年の中で最も低い上昇率となっています。

この背景にはお盆休みがあります。お盆休みには個人投資家も機関投資家も夏季休暇に入り、いったん手じまいする傾向があります。7月下旬ごろから3月決算企業の第1四半期決算が発表され始めるため、決算待ちの買い控えが発生します。そのため8月は軟調な相場となる可能性が高く、株価は下がる傾向にあります。

しかし、8月後半になれば9月に優待権利確定日を迎える銘柄において買い戻しがありますので株価上昇のチャンスはあります。ですので、投資家から人気の優待銘柄に注目した戦略をとるとよいでしょう。

<日本株市場の傾向>

■東証 1 部■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証 1 部では、勝率 43.91%、平均損益-0.62%となっています。平均損益がマイナスとなっており、株価は下がりやすくなっています。

■東証 2 部・大証・名証■

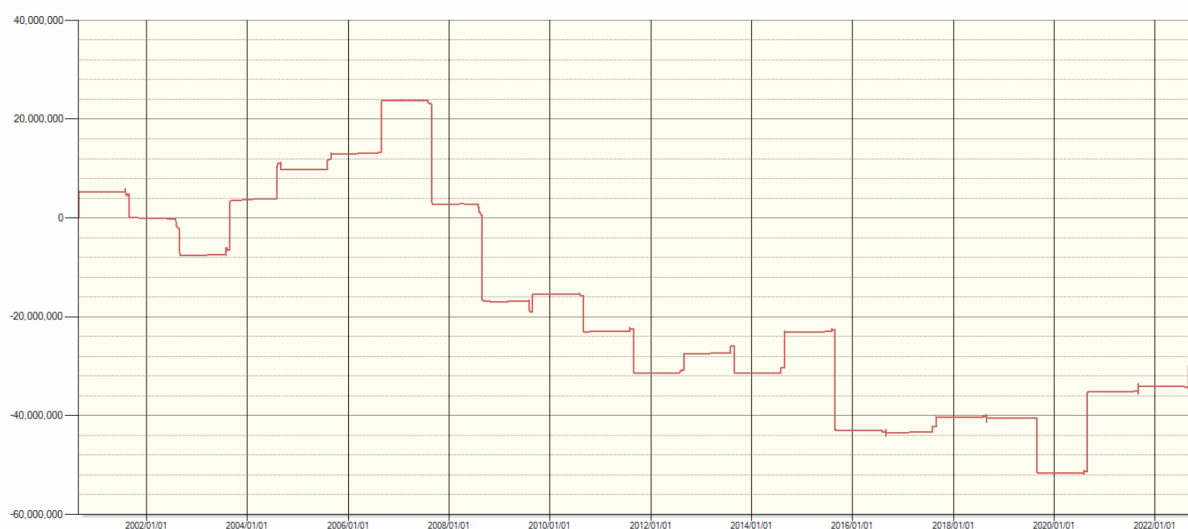


出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証 2 部・大証・名証では勝率 43.25%、平均損益-0.11%となっています。平均損益がマイナスとなっており、株価は下がりやすくなっています。

■ジャスダック・マザーズ■

損益の推移



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

ジャスダック・マザーズでは勝率 40.07%、平均損益-0.70%となっています。他の市場と同様に平均損益がマイナスとなっており、株価は下がりやすくなっています。

検証結果	トレード回数	勝率	平均損益	合計損益	PF
東証 1 部	43,379 回	43.91%	-0.62%	-53,937,885 円	0.825
東証 2 部・大証・名証	15,678 回	43.25%	-0.11%	-3,308,387 円	0.972
JQ・M	21,282 回	40.07%	-0.70%	-29,948,179 円	0.844

市場別では、3 区分ともマイナスとなっており、市場全体で株価が下がりやすいことがわかります。東証 1 部では平均損益-0.62%、ジャスダック・マザーズでは平均損益-0.70%となっており、東証 2 部・大証・名証と比べ、やや大きな下落となっています。8 月は個人投資家や機関投資家が夏季休暇に入り投資を控えることから、買い意欲が衰える傾向があります。そのため、軟調な相場となる可能性が高く、市場全体で株価が下がりやすい傾向にあります。

＜業種別ベスト・ワースト＞

ベスト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	その他金融	69.57%	2.89%
②	不動産	54.46%	1.77%
③	空運	60.87%	1.68%
④	サービス	51.20%	1.45%
⑤	鉄道・バス	54.19%	1.23%

ワースト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	造船	44.44%	-2.22%
②	保険	39.78%	-1.81%
③	その他製造	36.23%	-1.78%
④	自動車	40.79%	-1.74%
⑤	陸運	34.09%	-1.64%

業種別で見ると、ベストの業種において平均損益は1%を越えており、7月に比べ上位の平均損益が高くなっています。

＜勝率が高い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	日油技研工業(4961)	88.89%	5.05%
②	大和証券オフィス投資法人(8976)	87.50%	3.23%
③	静岡スバル自動車(7473)	87.50%	0.53%
④	太陽商会(2447)	85.71%	12.34%
⑤	TOKYO BASE (3415)	85.71%	9.84%
⑥	鎌倉新書(6184)	85.71%	8.99%
⑦	セイジョー(7429)	85.71%	5.77%
⑧	大丸(8234)	85.71%	4.79%
⑨	ダイヤモンドシティ (8853)	85.71%	4.70%
⑩	住商リース(8592)	85.71%	3.47%

＜勝率が低い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	福島印刷(7870)	4.55%	-9.96%
②	ヒーハイト(6433)	5.56%	0.38%
③	AFC-HD(2927)	5.56%	-2.78%
④	太洋工業(6663)	5.56%	-4.86%
⑤	アールシーコア(7837)	5.88%	-6.22%
⑥	コカ・コーライースト ジャパン(2850)	6.25%	-3.87%
⑦	ライフフーズ(3065)	6.25%	-5.61%
⑧	日立メディコ(6910)	7.14%	-5.47%
⑨	リニカル(2183)	7.14%	-8.81%
⑩	メディアスホールディングス(3154)	7.69%	-9.00%

※上記は過去23年のデータであり上場廃止銘柄も多く含まれていますのでご注意ください。

<注目優待>

「TSI ホールディングス <3608>」

【権利確定月】2月末、8月末

【優待内容】同社グループ会社が運営するECサイトで利用できる20%割引券

(利用上限額30~40万円まで、1冊につき割引券7枚)

- 100株以上500株未満…1冊(継続保有3年以上の場合は2冊)
- 500株以上1000株未満…2冊(継続保有3年以上の場合は3冊)
- 1000株以上…3冊(継続保有3年以上の場合は4冊)

「コジマ <7513>」

【権利確定月】8月末

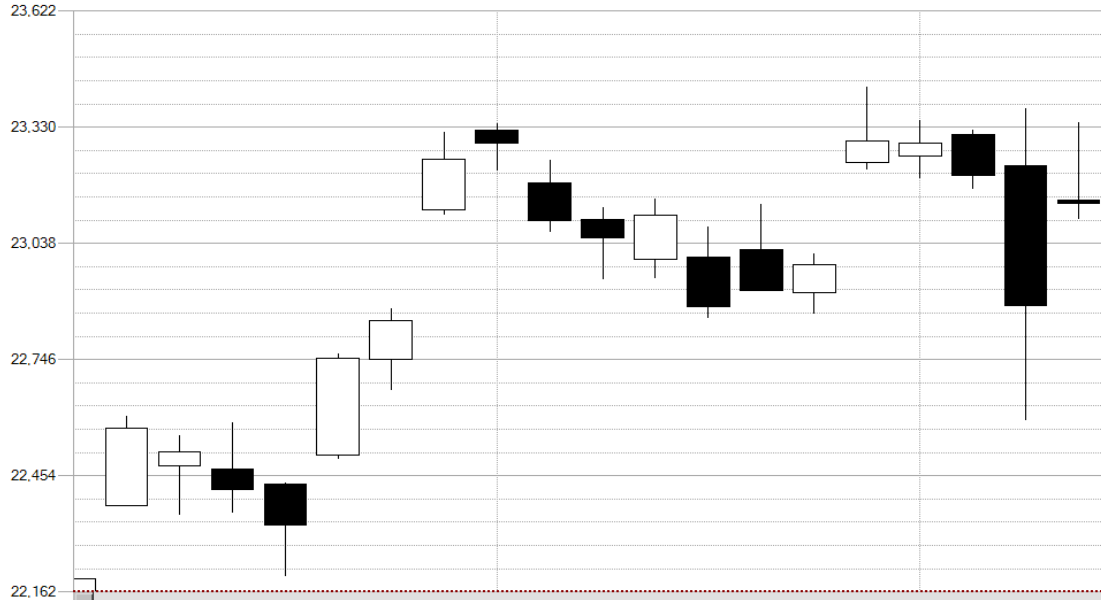
【優待内容】「コジマ」、グループ店舗で使える優待買物割引券

- 100株以上…1,000円相当
- 500株以上…3,000円相当
- 1,000株以上…5,000円相当
- 3,000株以上…15,000円相当
- 5,000株以上…20,000円相当

参考資料

＜過去 3 年の日経平均株価の推移＞

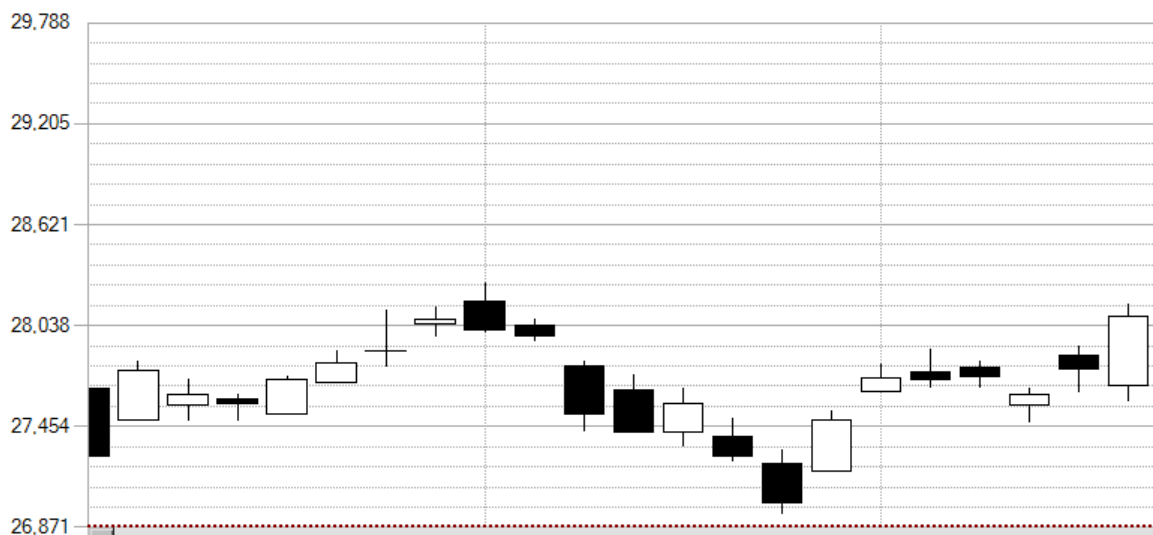
■2020 年 8 月■



新型コロナウイルスに対するワクチン開発への期待感やトランプ政権による経済対策を支えに米国株が堅調で、日本株相場も上昇しました。

※※

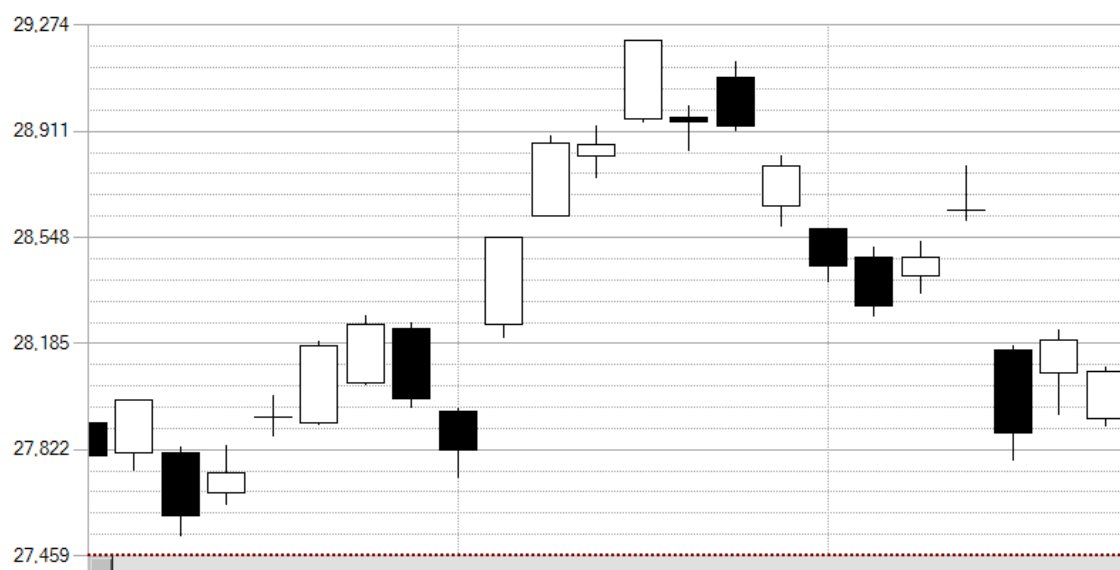
■2021 年 8 月■



パウエル議長による講演を受けて金融緩和政策が長く続くとの受け止めが広がり、月末にかけてハイテク株などを軸に米国株が値上がりして、欧州株や日本株が追随しました。

※※

■2022年8月■



米国の利上げペースの減速観測を受け、また主要企業の好決算や為替の円安も支援材料となり、日経平均は2万9000円台を回復しました。しかし、FRBがインフレ抑制を最優先する姿勢を示し、月末にかけて米国株が下落した結果、日経平均もつれ安となりました。

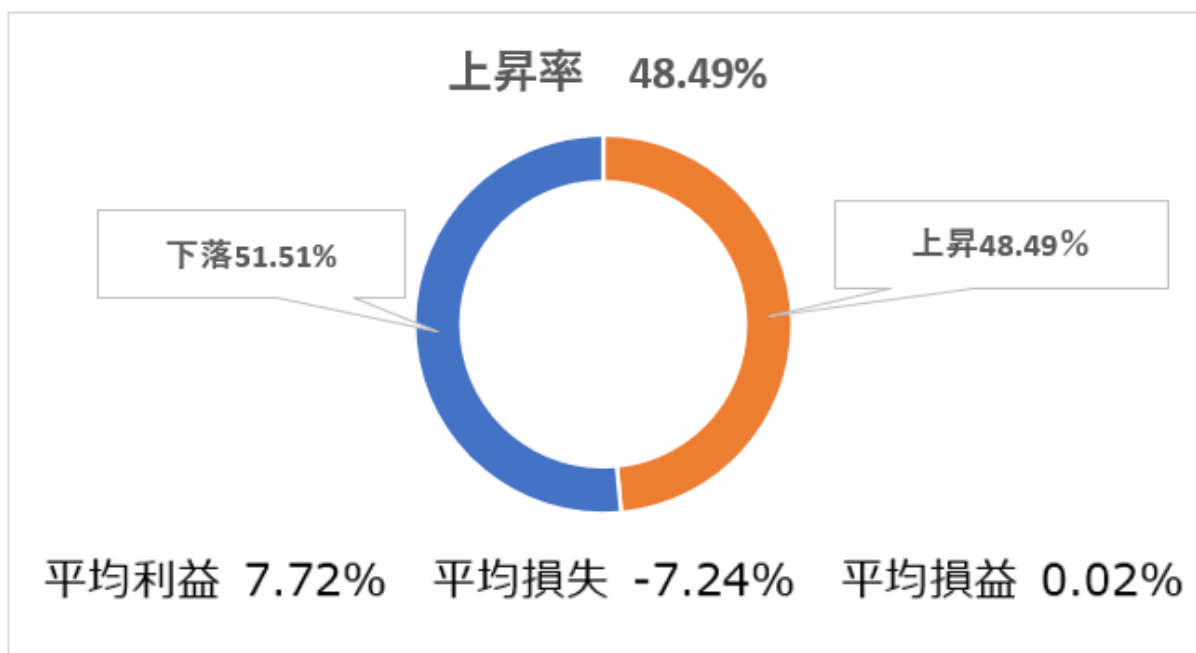
※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

1. 月別アノマリー紹介

9. 9月アノマリー

<9月の傾向と対策>

過去 23 年の上昇率ランキング **8 位**
大型株が上昇しやすい月

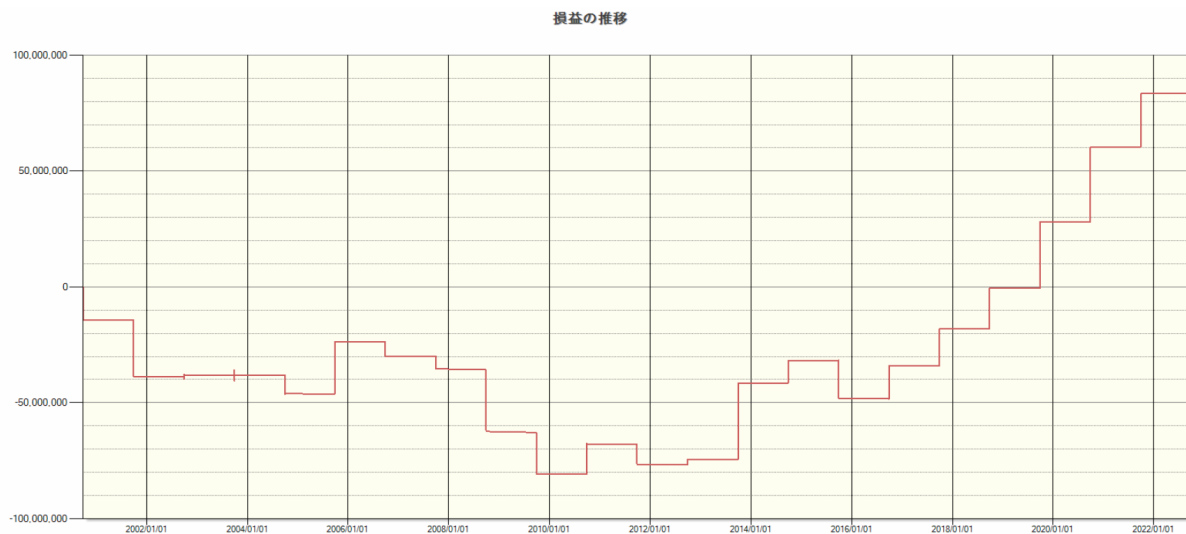


9月は3月決算企業の中間決算の締め月です。特に中小型株では中間決算に向けた売りが9月の下旬ごろから増加する傾向が見られます。過去の株価データをみると、上昇率48.49%、平均利益7.72%、平均損失-7.24%、平均損益0.02%となっており8月よりは改善し、平均損益は僅かにプラス、株価は上がりやすい傾向にあります。しかし、個人投資家は決算発表リスクを嫌う傾向にあり、9月は中小型株が売られやすくなります。

一方、大型株は平均損益がプラスと堅調な推移となっていますので、9月は大型株に注目した戦略をとるとよいでしょう。

<日本株市場の傾向>

■東証1部■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証1部では、勝率54.14%、平均損益0.79%となっています。勝率は50%を越え、平均損益がプラスとなっており、上昇傾向があります。

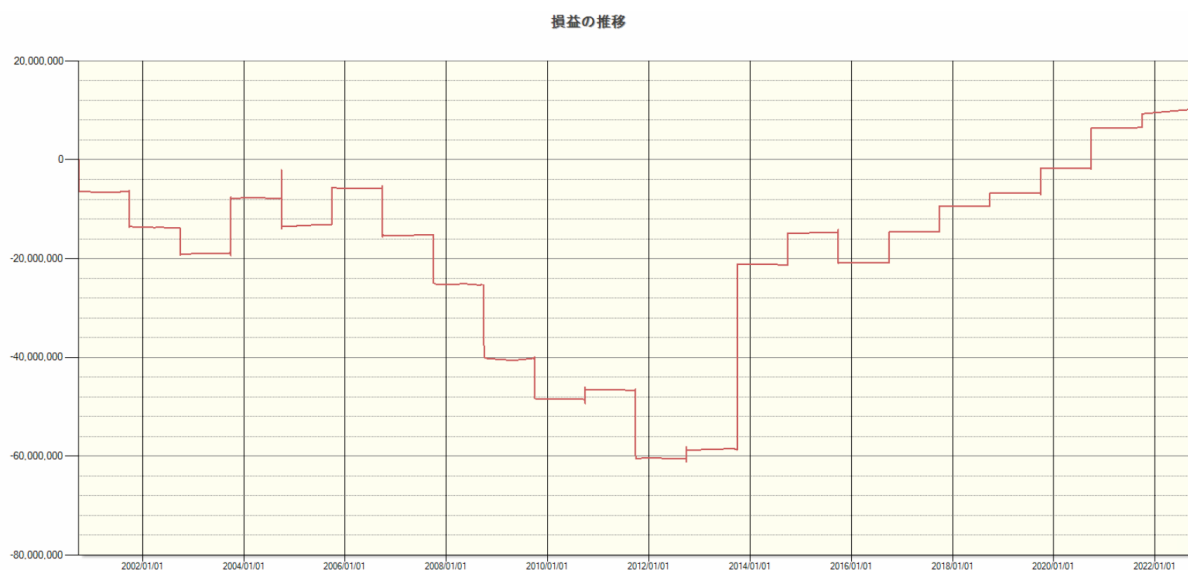
■東証2部・大証・名証■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証2部・大証・名証では勝率42.54%、平均損益-0.25%となっています。勝率は50%を下回り、平均損益がマイナスとなっており、株価は下がりやすくなっています。

■ ジャスダック・マザーズ ■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

ジャスダック・マザーズでは勝率 43.00%、平均損益 0.03%となっています。勝率は 50%を下回っていますが、平均損益が僅かながらプラスとなっており、株価は上がりやすくなっています。

検証結果	トレード回数	勝率	平均損益	合計損益	PF
東証 1 部	43,476 回	54.14%	0.79%	68,532,281 円	1.27
東 2 ・ 大 ・ 名	15,139 回	42.54%	-0.25%	-7,624,396 円	0.943
JQ ・ M	20,676 回	43.00%	0.03%	1,294,040 円	1.006

市場別では、東証 1 部では平均損益 0.79%、ジャスダック・マザーズでは平均損益 0.03%とプラスに転じました。しかし、東証 2 部・大証・名証、の中小型株では平均損益がマイナスとなっており、東証 2 部・大証・名証のみ株価が下がりやすい傾向があります。9 月は 3 月決算企業の中間決算締め月であり、株価は決算の内容によって大きく変動するリスクがあります。そのため、個人投資家は売買に慎重になり、個人投資家が売買の中心である中小型株で株価が下がりやすくなっています。

<業種別ベスト・ワースト>

ベスト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	保険	64.13%	2.39%
②	倉庫	60.87%	2.35%
③	小売業	57.50%	2.22%
④	鉄道・バス	66.67%	2.11%
⑤	銀行	60.19%	2.05%

ワースト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	電気機器	45.27%	-1.24%
②	空運	50.00%	-1.21%
③	パルプ・紙	35.29%	-0.51%
④	自動車	53.81%	-0.37%
⑤	化学	51.32%	-0.31%

業種別でみると、ベストの業種において平均損益が2%を越える業績が増え、8月に比べ上位の平均損益が高くなっています。

<勝率が高い銘柄>

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	銚子丸(3075)	93.33%	3.06%
②	ホシザキ(6465)	92.86%	6.43%
③	トモニホールディングス(8600)	92.31%	5.38%
④	フィデアホールディングス(8713)	91.67%	5.17%
⑤	NEXT FUNDS 食品 (TOPIX-17) 上場投信(1617)	91.67%	2.94%
⑥	白洋舎(9731)	91.30%	2.69%
⑦	TOPIXブル2倍上場投信(1568)	90.00%	7.84%
⑧	全国保証(7164)	90.00%	5.37%
⑨	ICDAホールディングス(3184)	90.00%	4.96%
⑩	東和フードサービス(3329)	89.47%	6.96%

<勝率が低い銘柄>

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	魚喜(2683)	4.76%	-7.48%
②	広島電鉄(9033)	5.26%	-1.80%
③	CDG(2487)	6.67%	-3.80%
④	オーシャンシステム(3096)	6.67%	-4.87%
⑤	メディビックグループ(2369)	7.69%	-14.02%
⑥	グローバルアジアホールディングス(3587)	7.69%	-13.60%
⑦	EMCOMホールディングス(7954)	8.33%	-3.78%
⑧	フマキラー(4998)	8.70%	-5.81%
⑨	ノエビア(4916)	9.09%	-5.45%
⑩	ダイイチ(7643)	9.52%	-4.64%

※上記は過去23年のデータであり上場廃止銘柄も多く含まれていますのでご留意下さい。

<注目優待>

「三洋堂ホールディングス <3058>」

【権利確定月】3月末、9月末

【優待内容】同社WEBサイト「IR情報 株主優待」ページより引用

	株主様優待カード	シルバーカード	ゴールドカード	スーパーゴールドカード	プラチナカード
保有株式数	100株以上 200株未満	200株以上 1,000株未満	1,000株以上 2,000株未満	2,000株以上 10,000株未満	10,000株以上
レンタル割引	20%	30%	40%	50%	60%
販売割引	2%	3%	4%	5%	6%

(出所：株式会社三洋堂ホールディングス「IR情報 株主優待」ページ (<https://ir.sanyodo.co.jp/benefits.html>))

(※100株以上を1年以上の株式継続保有をしている場合) 全国共通図書カード

- 100株以上…1,000円分
- 200株以上…2,000円分

「アクシアルリテイリング <8255>」

【権利確定月】3月末、9月末

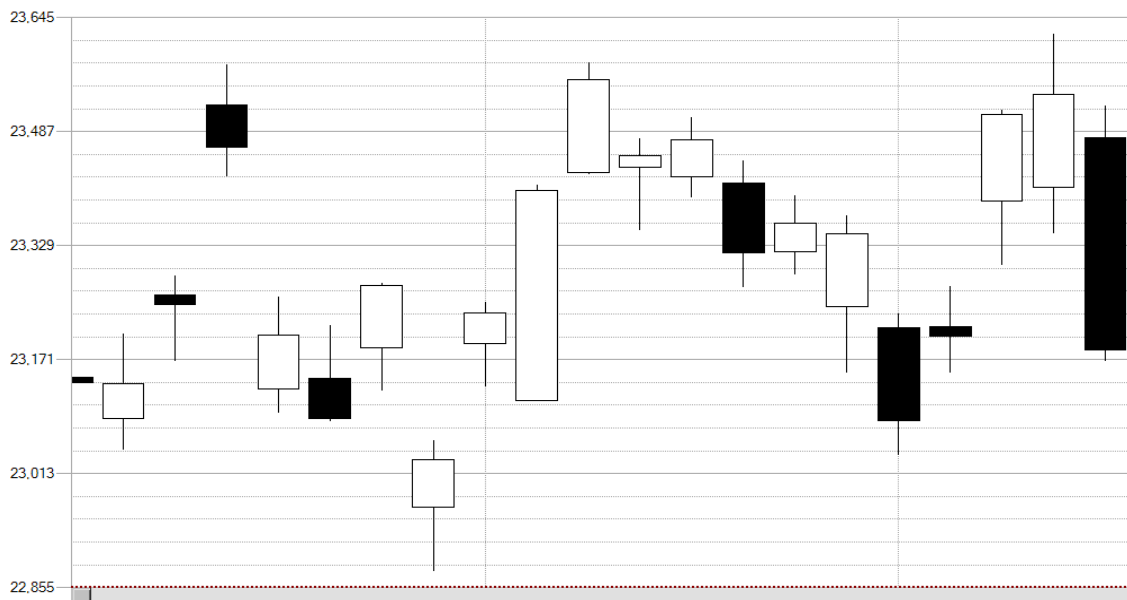
【優待内容】(1) 割引券 (2) クオカード (3) コシヒカリ (4) 自社製品

- 100株以上…(1) 1,500円相当 (2) 1,000円相当
- 500株以上…(1) 3,000円相当 (2) 2,000円相当 (3) 5kg
- 1,000株以上…(1) 5,000円相当 (2) 3,000円相当 (3) 10kg (4)
- 2,000株以上…(1) 10,000円相当 (2) 3,000円相当 (3) 10kg (4)
- 3,000株以上…(1) 15,000円相当 (2) 3,000円相当 (3) 10kg (4)
- 4,000株以上…(1) 20,000円相当 (2) 3,000円相当 (3) 10kg (4)
- 5,000株以上…(1) 25,000円相当 (2) 3,000円相当 (3) 10kg (4)

参考資料

＜過去3年の日経平均株価の推移＞

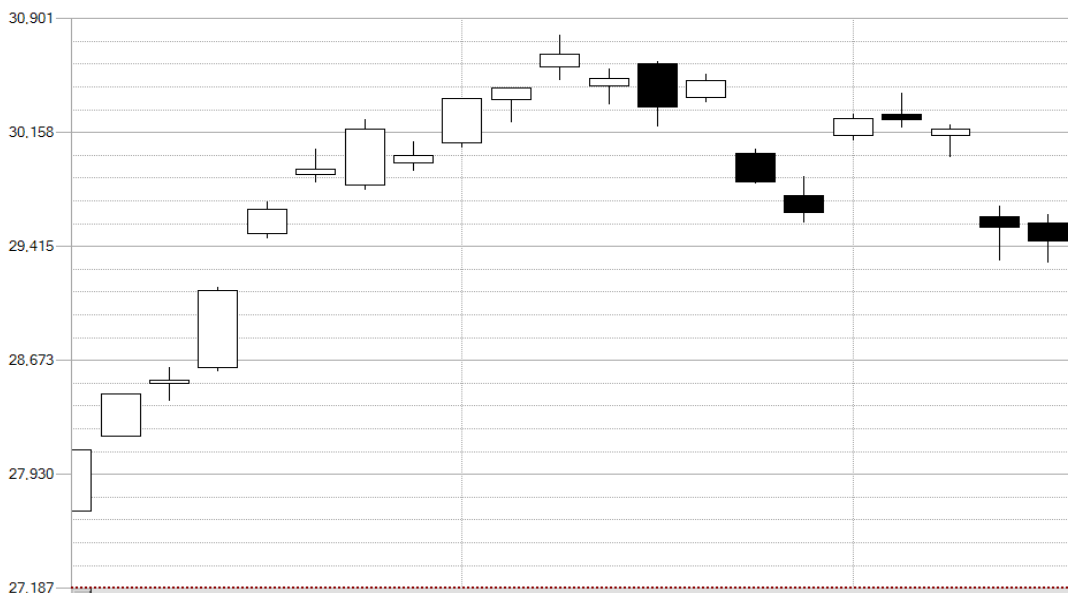
■2020年9月■



安倍前首相の後任に菅首相が就任し、経済・金融政策が引き継がれるとの見方が相場を支えました。

※※※

■2021年9月■



菅義偉首相が月初に退陣を表明しました。次期首相の景気浮揚策への期待が高まり、14日に約31年ぶりの高値を記録しましたが、その後は高値警戒感などから頭打ちとなりました。

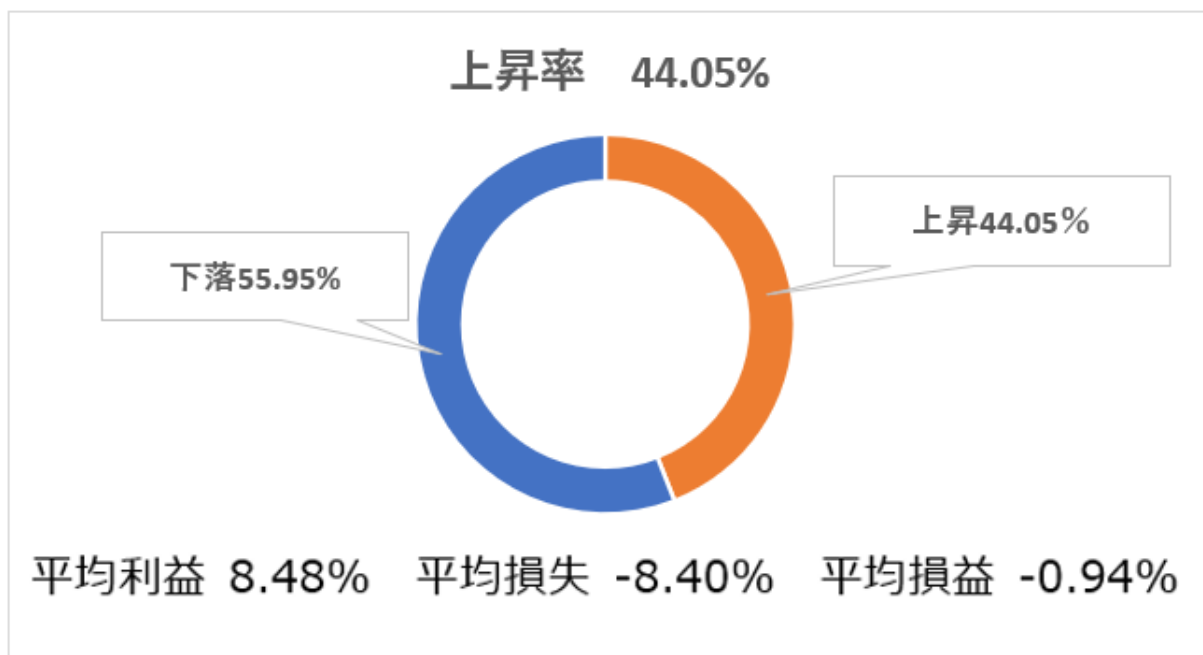
※※※

I. 月別アノマリー紹介

10. 10月アノマリー

<10月の傾向と対策>

過去 23 年の上昇率ランキング **11 位**
 大中型株には要注意！！

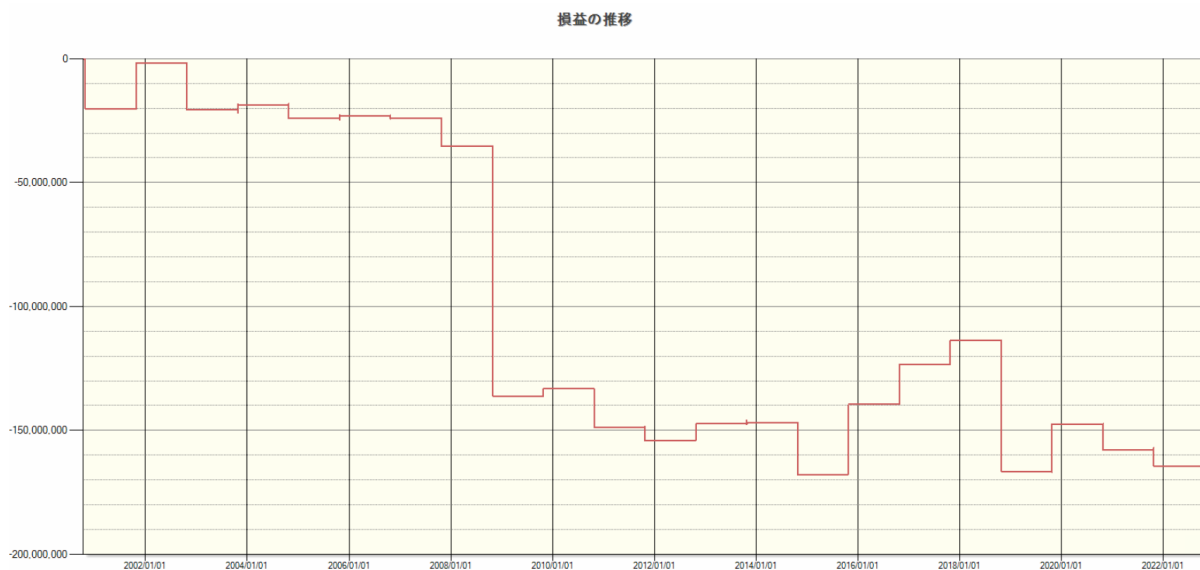


10月 は 3月決算企業の中間決算発表が本格化する月です。そのため投資家は売買に対して慎重になり、相場は軟調に推移する傾向があります。過去の株価データをみると、上昇率44.05%、平均利益8.48%、平均損失-8.40%、平均損益-0.94%となっており、1年の中で2番目に低い上昇率となっています。9月よりも上昇率と平均損益は下がり、買いの圧力は弱く、株価が下落しやすい月だといえます。

10月 は市場ごとに傾向が全く異なります。市場全体では平均損益がマイナスとなっており下落傾向にありますが、ジャスダック・マザーズの新興市場ではその下落率が小さいのが確認できます。ですので、新興市場に注目した戦略を立てるのが良いでしょう。

<日本株市場の傾向>

■東証1部■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証1部では、勝率43.40%、平均損益-1.74%となっています。平均損益がおおよそ-2%弱と、強い下落傾向があります。

■東証2部・大証・名証■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証2部・大証・名証では勝率43.66%、平均損益-0.99%となっています。平均損益が約-1%と、下落傾向があります。

■ジャスダック・マザーズ■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

ジャスダック・マザーズでは勝率 45.80%、平均損益 0.02%となっています。平均損益がプラスとなっており、横ばいながら上昇傾向があります。

検証結果	トレード回数	勝率	平均損益	合計損益	PF
東証 1 部	43,635 回	43.40%	-1.74%	-151,549,561 円	0.609
東 2 ・ 大 ・ 名	16,201 回	43.66%	-0.99%	-32,115,773 円	0.749
JQ ・ M	21,946 回	45.80%	0.02%	805,652 円	1.004

市場別では、ジャスダック・マザーズがプラスであります。平均損益が0.02%と僅かながらのプラスとなっております。東証 1 部では平均損益-1.74%、東証 2 部・大証・名証市場全体では平均損益-0.99%となっており、ジャスダック・マザーズと比べ、大きな下落となっております。10 月は 3 月決算企業の中間決算発表が本格化する月です。そのため投資家は売買に対して慎重になり、軟調な相場となる可能性が高く、市場全体で株価が下がりやすい傾向にあります。

<業種別ベスト・ワースト>

ベスト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	不動産	50.98%	0.12%
②	自動車	59.03%	-0.04%
③	商社	62.42%	-0.16%
④	ゴム	45.65%	-0.21%
⑤	海運	56.72%	-0.38%

ワースト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	窯業	46.74%	-2.70%
②	精密機器	47.37%	-2.66%
③	銀行	51.82%	-2.10%
④	鉄鋼	46.74%	-1.97%
⑤	繊維	40.23%	-1.87%

業種別でみると、トップの不動産は平均損益がプラスとなっていますが、その他の業種の平均損益はマイナスとなっており、相場全体で苦戦しています。

<勝率が高い銘柄>

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	中国H株ブル2倍上場投 信(1572)	88.89%	5.87%
②	GMOリサーチ(3695)	87.50%	4.97%
③	マツヤ(7452)	87.50%	3.81%
④	日興コーディアルグルー プ(8603)	87.50%	4.08%
⑤	WisdomTree 農産物上場投資信託 (1687)	87.50%	3.69%
⑥	野村不動産レジデンシャ ル投資法人(3240)	87.50%	2.01%
⑦	ジェイリース(7187)	85.71%	9.01%
⑧	ダイナシティ(8901)	85.71%	8.26%
⑨	富士ソフトサービス ビューロ(6188)	85.71%	8.17%
⑩	バルニバービ(3418)	85.71%	6.27%

<勝率が低い銘柄>

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	いなげや(8182)	4.35%	-4.09%
②	東和フードサービス (3329)	5.26%	-7.03%
③	名糖運輸(9047)	7.14%	-3.79%
④	大多喜ガス(9541)	8.33%	-2.79%
⑤	日本製紙グループ本社 (3893)	8.33%	-4.55%
⑥	鈴丹(8193)	8.33%	-14.29%
⑦	アイコム(6820)	8.70%	-4.46%
⑧	栄光(9789)	9.09%	-5.42%
⑨	京王ズホールディングス (3731)	9.09%	-12.76%
⑩	ユーグレナ(2931)	10.00%	-5.29%

※上記は過去23年のデータであり上場廃止銘柄も多く含まれていますのでご留意下さい。

<注目優待>

「ロック・フィールド <2910>」

【権利確定月】4月末日、10月末日

【優待内容】おそうざい券

基準日	所有株式数	継続保有期間 (※1)	
		5年未満	5年以上 (※2)
4月末	200株以上 500株未満	1,000円分	2,000円分
	500株以上 1,000株未満	3,000円分	4,000円分
	1,000株以上 3,000株未満	10,000円分	11,000円分
	3,000株以上 5,000株未満	15,000円分	16,000円分
	5,000株以上	30,000円分	31,000円分
10月末	100株以上	1,000円分	

参照 <https://www.rockfield.co.jp/ir/stock/yutai.html>

「神戸物産 <3038>」

【権利確定月】10月末日

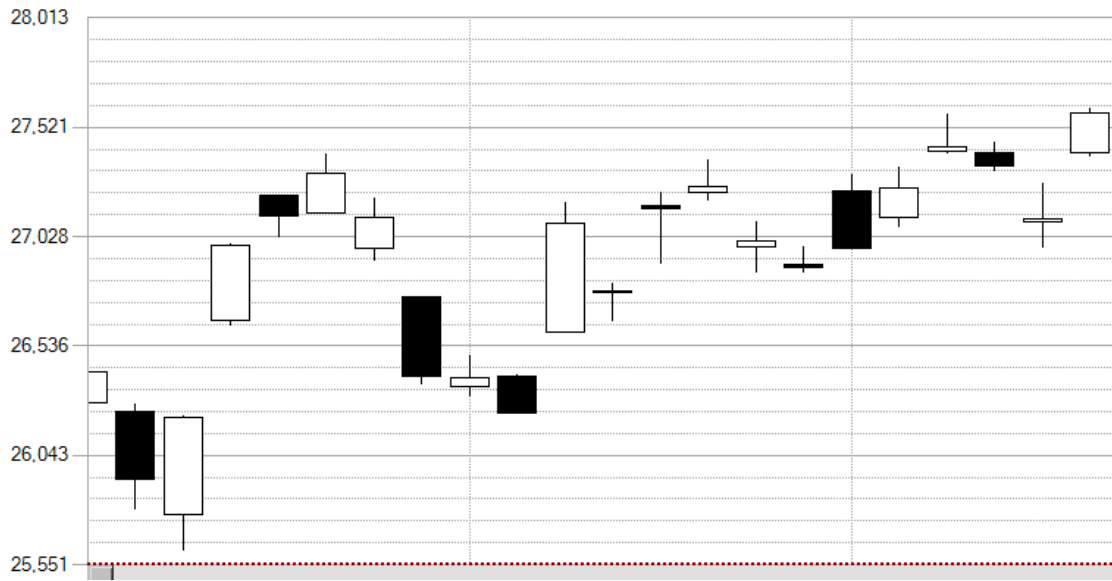
【優待内容】JCB ギフトカード

- ・100株 1,000円相当
- ・1,000株 10,000円相当
- ・2,000株 15,000円相当

保有期間3年以上

- ・100株 3,000円相当
- ・1,000株 15,000円相当
- ・2,000株 20,000円相当

■2022年10月■



月前半は米金融引き締めの方角感を見通しづらく、日経平均はもみ合いましたが、月後半に米国で今後の利上げ減速観測から株価が盛り返し、日本株の買いに波及しました。

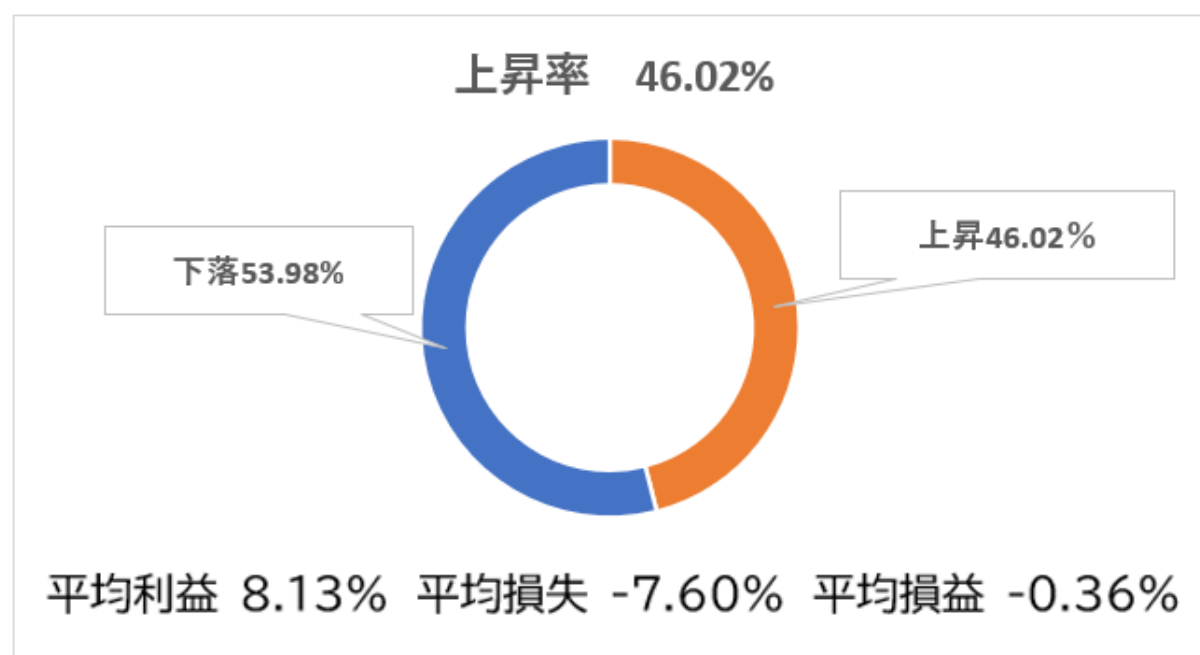
※※※

I. 月別アノマリー紹介

11. 11月アノマリー

<11月の傾向と対策>

過去 23 年の上昇率ランキング **9 位**
 中間決算による失望売りに要注意！！

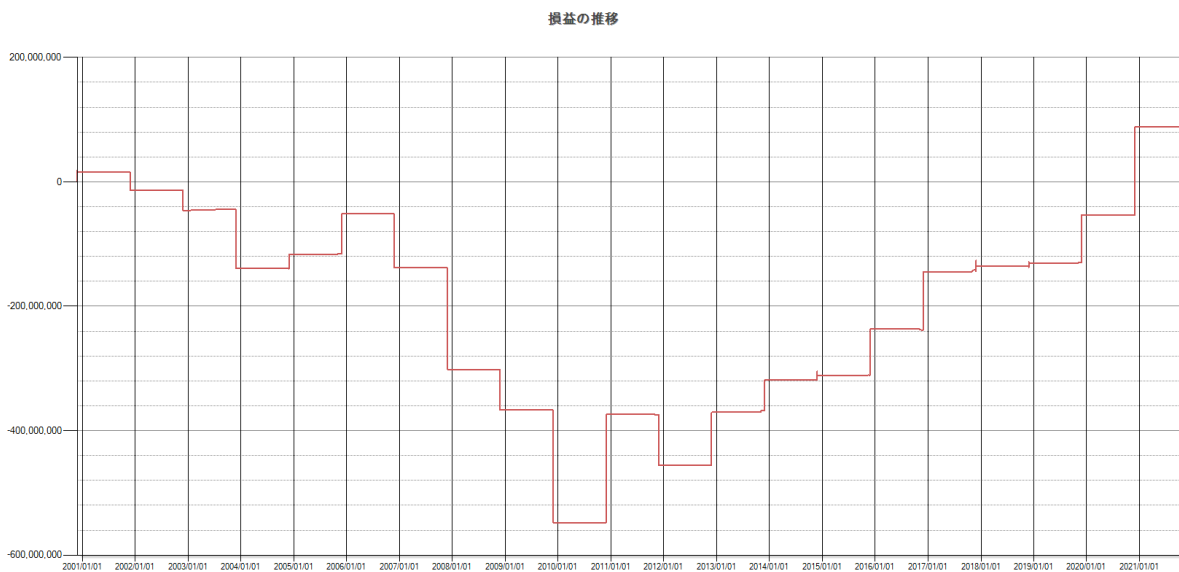


11月は10月に続いて3月決算企業の間接決算が本格化する月です。日本企業は決算内容を保守的に見積もることが多く、決算発表後は決算内容に対しての失望売りが出やすい傾向があります。過去の株価データをみると、上昇率 46.02%、平均利益 8.13%、平均損失 -7.60%、平均損益-0.36%となっています。10月の平均損益-0.94%と比べると改善しておりますが、10月に引き続き平均損益はマイナスとなっており、株価は下落しやすいことがわかります。

11月において、個別銘柄の株価は各企業の決算発表を反映して動きやすくなります。業績が予想より良ければ注目が集まり、株価が値上がりする可能性がありますのでそういった銘柄を探して買うとよいでしょう。

<日本株市場の傾向>

■東証1部■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証1部では、勝率49.13%、平均損益-0.09%となっています。平均損益がマイナスとなっており、株価は下がりやすくなっています。

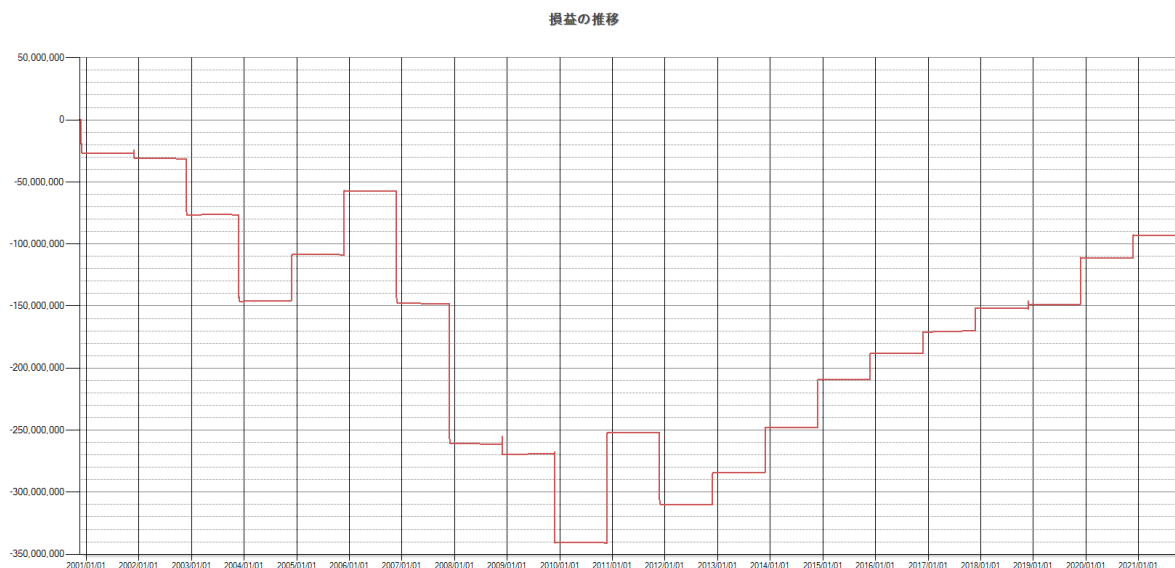
■東証2部・大証・名証■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証2部・大証・名証では勝率43.03%、平均損益-0.90%となっています。平均損益がマイナスとなっており、株価は下がりやすくなっています。

■ジャスダック・マザーズ■



ジャスダック・マザーズでは勝率 44.85%、平均損益-0.29%となっています。勝率は 50%を下回り、平均損益がマイナスとなっており、株価は下がりやすくなっています。

検証結果	トレード回数	勝率	平均損益	合計損益	PF
東証 1 部	43,637 回	49.13%	-0.09%	-7,982,781 円	0.974
東 2 ・ 大 ・ 名	15,839 回	43.03%	-0.90%	-28,407,498 円	0.777
JQ ・ M	21,583 回	44.85%	-0.29%	-12,421,996 円	0.938

市場別でみると、3 区分とも平均損益がマイナスとなっており、市場全体で株価が下がりやすい傾向があります。特に東証 2 部・大証・名証では平均損益-0.90%となっており、3 区分の中で最も株価が下がりやすくなっています。日本企業は決算内容を保守的に見積もることが多く、決算発表後は決算内容に対しての失望売りが出やすい傾向があります。そのため、中間決算が本格化する 11 月は株価が下がりやすい傾向があります。

＜業種別ベスト・ワースト＞

ベスト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	電気機器	56.66%	2.26%
②	陸運	61.54%	1.63%
③	医薬品	58.42%	1.56%
④	精密機器	55.65%	1.48%
⑤	小売業	50.63%	1.08%

ワースト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	不動産	42.16%	-2.69%
②	その他金融	47.83%	-2.19%
③	建設	44.33%	-1.84%
④	商社	44.94%	-1.20%
⑤	造船	51.11%	-1.16%

業種別でみると10月に比べてベストの平均損益は1%台まで上昇しました。電気機器や陸運が好調です。

＜勝率が高い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	トミタ(8147)	92.31%	12.02%
②	きちりホールディングス(3082)	91.67%	8.84%
③	SYSKEN(1933)	91.67%	6.48%
④	ハマイ(6947)	91.67%	6.01%
⑤	ラ・アトレ(8885)	90.00%	7.89%
⑥	ミサワ(3169)	88.89%	4.59%
⑦	サンリン(7486)	88.89%	3.06%
⑧	NEXT 東証マザーズETN(2042)	88.89%	2.42%
⑨	Oneリート投資法人(3290)	88.89%	2.15%
⑩	メドピア(6095)	87.50%	18.29%

＜勝率が低い銘柄＞

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	くろがねや(9855)	5.88%	-2.09%
②	ワイ・イー・データ(6950)	7.14%	-5.57%
③	ビーアールホールディングス(1726)	7.14%	-6.32%
④	サハダイヤモンド(9898)	7.14%	-14.75%
⑤	日立ツール(5963)	8.33%	-5.14%
⑥	富士古河E & C(1775)	9.09%	-4.43%
⑦	こころネット(6060)	10.00%	-1.58%
⑧	イメージ情報開発(3803)	10.00%	-4.46%
⑨	サーラ住宅(1405)	10.00%	-5.19%
⑩	昭和KDE(1701)	10.00%	-7.90%

※上記は過去23年のデータであり上場廃止銘柄も多く含まれていますのでご留意下さい。

<注目優待>

「サムティ <3244>」

【権利確定月】 11 月

【優待内容】 同社保有ホテルの無料宿泊券

- 200 株以上……1 枚
- 300 株以上……2 枚
- 600 株以上……3 枚
- 1,000 株以上……4 枚
- 2,000 株以上……6 枚
- 5,000 株以上……8 枚
- 10,000 株以上……10 枚

「ヴィレッジヴァンガードコーポレーション <2769>」

【権利確定月】 11 月

【優待内容】 お買物券(1 枚 1,000 円相当)

- 100 株以上：お買物券 10 枚

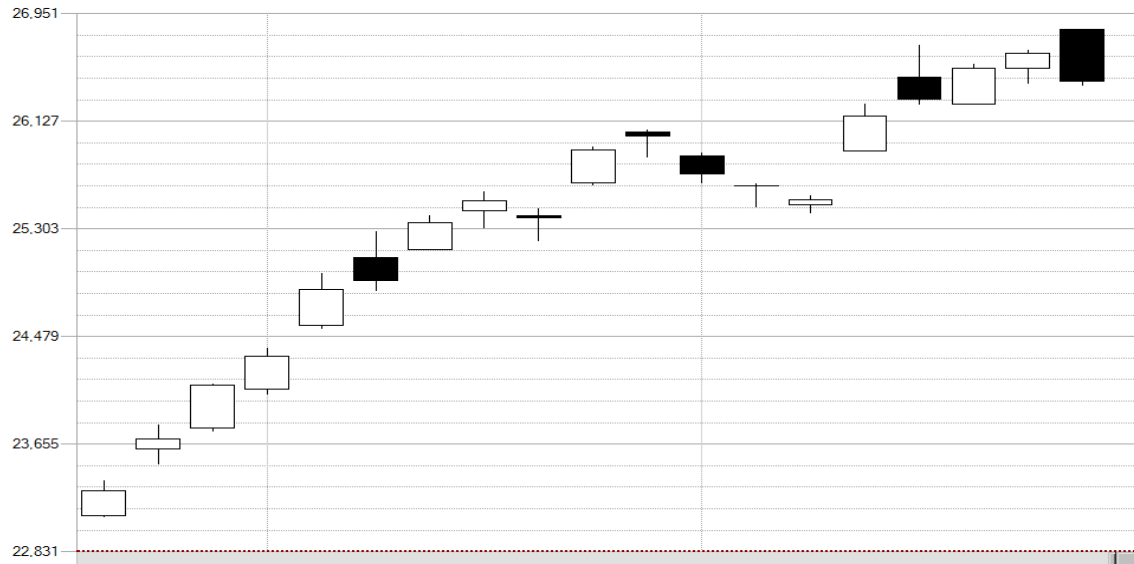
※1 年以上 2 年未満継続保有でお買物券 1 枚追加

※2 年以上継続保有でお買物券 2 枚追加

参考資料

＜過去3年の日経平均株価の推移＞

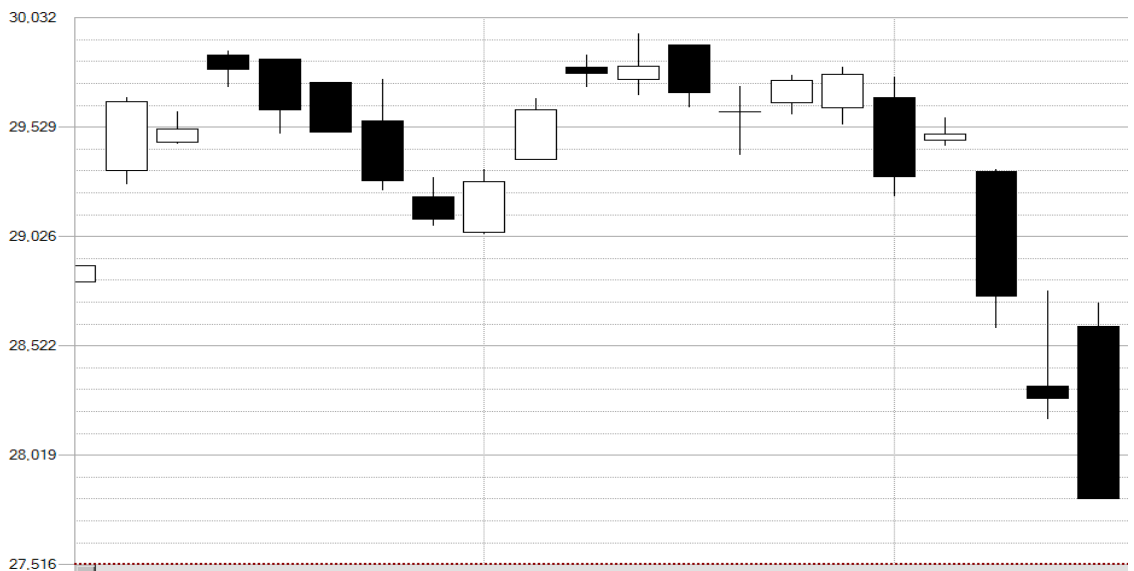
■2020年11月■



新型コロナウイルスのワクチン開発による経済活動の停滞に歯止めをかけるとの期待感から、月次終値としては1990年7月以来、30年4カ月ぶりの高い水準で堅調に推移しました。

※※

■2021年11月■



月末にかけて新型コロナウイルスの新しい変異ウイルス「オミクロン型」への感染懸念が強まり、世界の主要株式指数と歩調を合わせて日経平均も値下がりしました。

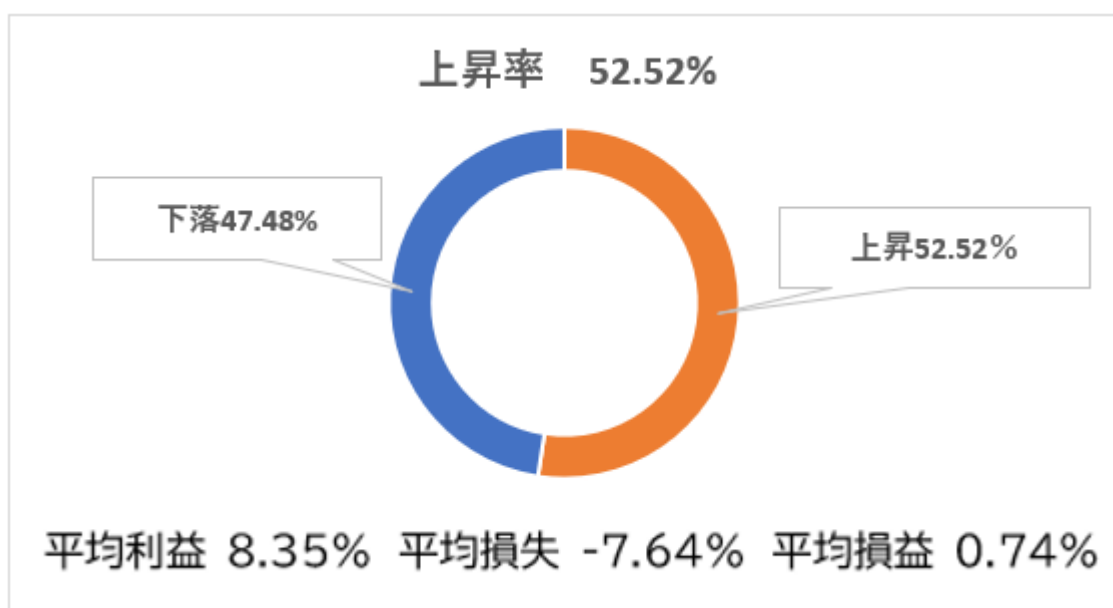
※※

1. 月別アノマリー紹介

12. 12月アノマリー

<12月の傾向と対策>

過去 23 年の上昇率ランキング **4 位**
 上旬と中旬以降での動きの違いに要注意！！

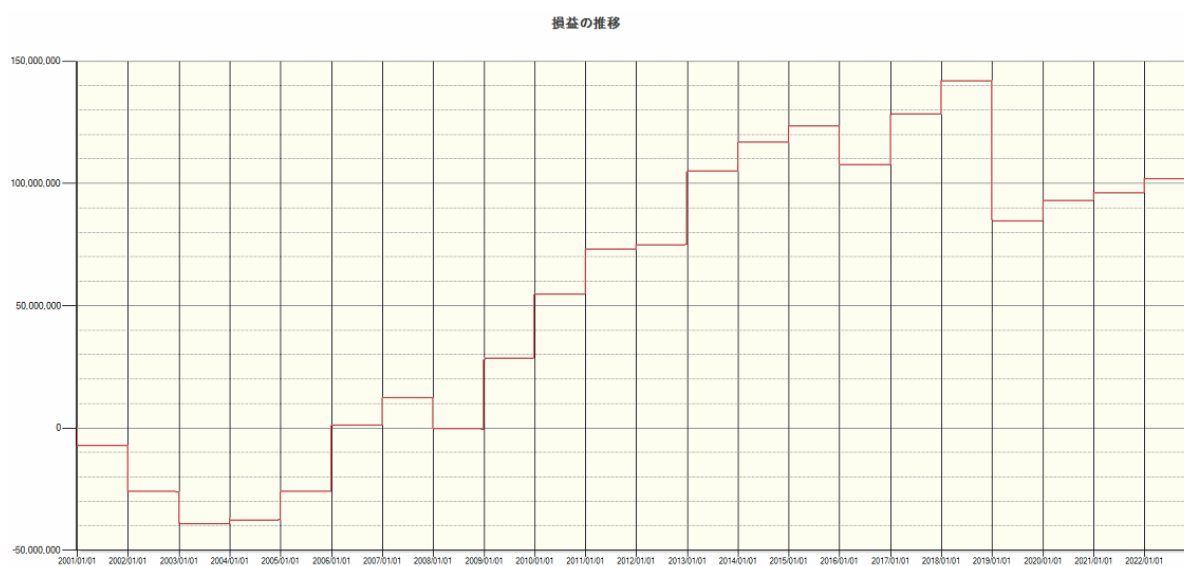


12月は株価動向に影響を与える重要なイベントが数多く控えている月です。米国の投資信託の決算が11月に終わり、手仕舞った株の買い戻しが入ることで再度上昇します。一方で、個人の節税対策の売りが出やすいことから売り圧力が強まりやすくもあります。過去の株価データをみると、上昇率 52.52%、平均利益 8.35%、平均損失-7.64%、平均損益 0.74%となっております。

なお、12月は初旬と中旬以降で動き方がまったく違うので注意が必要です。初旬は個人投資家の節税対策の売りが出やすいため下落する傾向にあります。しかし中旬以降には、個人投資家の売り圧力が弱まります。そうすると、再び買い圧力が強まり、年末にかけて株価は大きく回復します。以上のことを踏まえると、12月は中旬頃から銘柄選定をすることが有効でしょう。

<日本株市場の傾向>

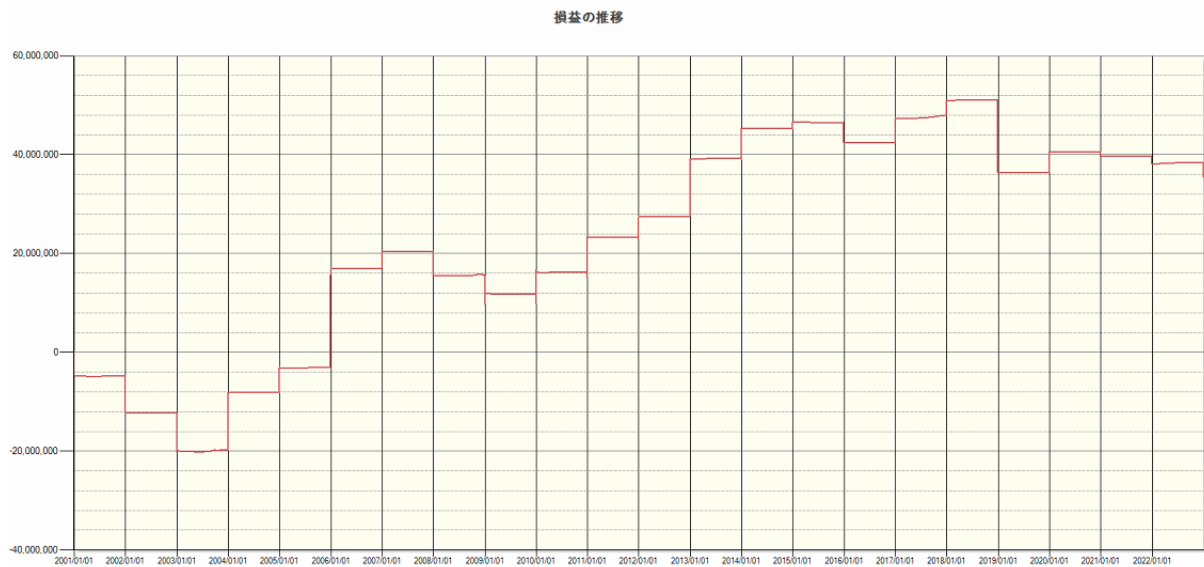
■東証1部■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証1部では、勝率54.91%、平均損益0.98%となっています。勝率は50%を上回り、平均損益も約1%となっており、株価は上がりやすくなっています。

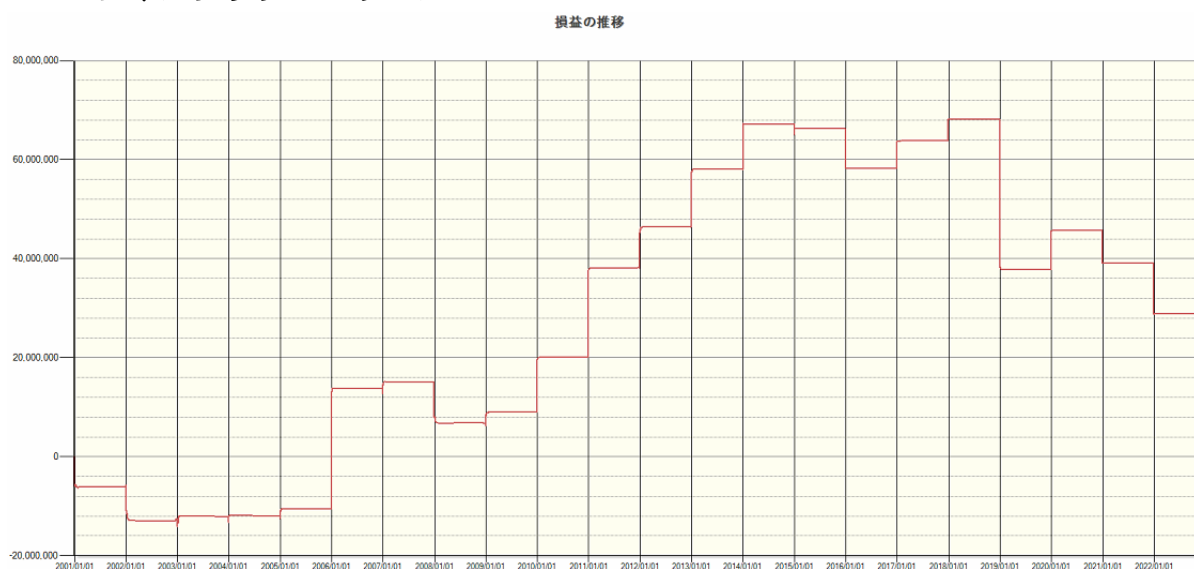
■東証 2 部・大証・名証■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

東証 2 部・大証・名証では勝率 52.52%、平均損益 1.14%となっています。勝率は 50%を上回り、平均損益が 1%を超えているため、株価は上がりやすくなっています。

■ジャスダック・マザーズ■



出所：システムトレードの達人 標準モード「損益の推移」画面

ジャスダック・マザーズでは勝率 48.18%、平均損益 0.31%となっています。勝率は 50%を下回ったものの、平均損益はプラスとなり、上昇傾向があります。

検証結果	トレード回数	勝率	平均損益	合計損益	PF
東証 1 部	43,921 回	54.91%	0.98%	86,512,440 円	1.334
東 2 ・ 大 ・ 名	15,556 回	52.52%	1.14%	35,557,669 円	1.281
JQ ・ M	22,972 回	48.18%	0.31%	14,369,587 円	1.067

市場別では、ジャスダック・マザーズのみ勝率が 50%を下回ったものの、3 区分とも平均損益はプラスとなりました。市場全体で株価が上がりやすい傾向があります。特に東証 2 部・大証・名証では平均損益+1.14%となっており、強い上昇傾向が確認できます。12 月は投資家の節税対策の売りが出やすいため、初旬では株価が下落する傾向があります。しかし 12 月中旬以降は個人投資家の売り圧力が弱まり、買い圧力が強まる傾向があります。この傾向をうまく活用できれば良い結果が出せるかもしれません。

<業種別ベスト・ワースト>

ベスト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	海運	72.06%	5.10%
②	鉄鋼	68.82%	4.04%
③	鉱業	58.82%	3.95%
④	保険	71.28%	3.22%
⑤	小売業	63.35%	2.67%

ワースト			
順位	業種	勝率	平均損益
①	ゴム	50.00%	-0.63%
②	通信	50.39%	-0.30%
③	空運	54.55%	0.76%
④	医薬品	57.59%	0.81%
⑤	不動産	47.52%	0.86%

業種別で見ると、11月までに比べ勝率・平均損益ともに上昇しています。ゴム・通信を除くすべての業種で平均損益がプラスとなっています。

<上がった銘柄>

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	ヒラキ(3059)	93.75%	2.56%
②	桑山(7889)	92.86%	5.33%
③	ハリマシステム(9780)	91.67%	3.46%
④	昭和パックス(3954)	91.67%	3.71%
⑤	木曾路(8160)	90.91%	2.26%
⑥	日本エス・エイチ・エル(4327)	90.91%	2.03%
⑦	セイヒョー(2872)	90.91%	1.27%
⑧	味の素(2802)	90.48%	3.01%
⑨	曾田香料(4965)	90.00%	8.63%
⑩	トップリート投資法人(8982)	90.00%	8.33%

<下がった銘柄>

順位	銘柄名	勝率	平均損益
①	イナリサーチ(2176)	7.14%	-6.66%
②	東邦レマック(7422)	7.14%	-7.66%
③	イーサポートリンク(2493)	8.33%	-5.27%
④	ユビテック(6662)	8.33%	-6.03%
⑤	昭和情報機器(6922)	8.33%	-6.21%
⑥	アゼアス(3161)	8.33%	-7.58%
⑦	テラ(2191)	8.33%	-10.68%
⑧	フード・プラネット(7853)	8.33%	-13.53%
⑨	不二硝子(5212)	9.09%	-3.09%
⑩	イーブックイニシアティブジャパン(3658)	9.09%	-4.59%

※上記は過去23年のデータであり上場廃止銘柄も多く含まれていますのでご留意下さい。

<注目優待>

「すかいらーくホールディングス <3197>」

【権利確定月】6月、12月

【優待内容】優待食事券

- 100株以上……2,000円相当
- 300株以上……5,000円相当
- 500株以上……8,000円相当
- 1,000株以上……17,000円相当

「楽天 <4755>」

【権利確定月】12月

【優待内容】①楽天キャッシュ

- 100株以上……【5年未満保有】500円相当
【5年以上保有】1,000円相当
- 1,000株以上……【5年未満保有】1,000円相当
【5年以上保有】1,500円相当
- 5,000株以上……【5年未満保有】1,500円相当
【5年以上保有】2,000円相当
- 10,000株以上……【5年未満保有】2,000円相当
【5年以上保有】2,500円相当

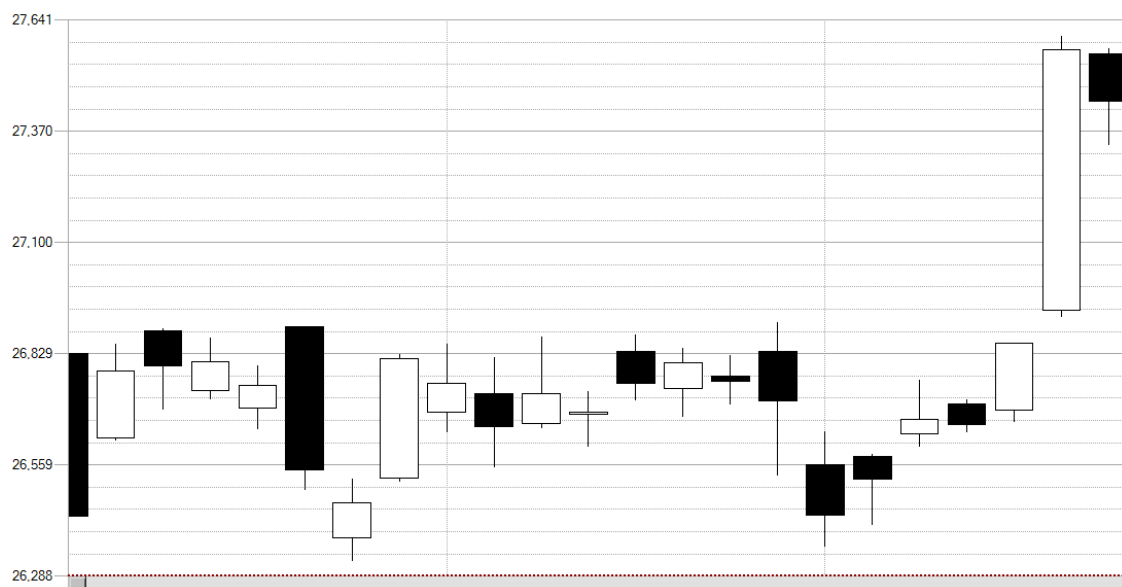
【優待内容】②「NBA Rakuten」のリーグパス無料権など

- 100株以上……
 - (1) 「NBA Rakuten」のリーグパス無料権（3か月間）
 - (2) 「楽天ミュージック」のスタンダードプラン無料権（90日間）
 - (3) 「楽天マガジン」の無料購読権（90日間）
 - (4) 「お買い物パンダグッズ」のプレゼント（抽選式）

参考資料

<過去 3 年の日経平均株価の推移>

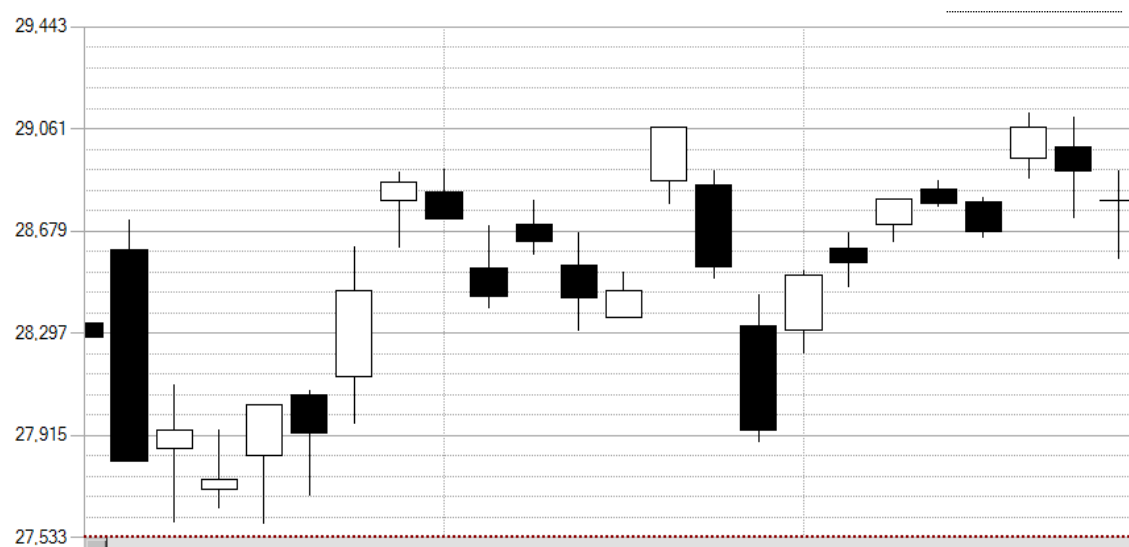
■2020 年 12 月■



米市場でダウやナスダックなど主要な株価指数がそろって過去最高値を更新したことで、1990年8月以来30年4ヶ月ぶりとなる水準でバブル崩壊後の高値を更新しました。

※※※

■2021 年 12 月■



新型コロナウイルスの変異型の「オミクロン型」への懸念が和らいだほか、年内最後の米FOMCが無事に通過したことの安心感から、投資家の買い意欲が強まりました。

※※※

■ 2022年12月 ■



日銀の大規模な金融緩和の修正を受けて大きく下げました。インフレ抑制に向けた金融引き締め長期化観測から米国株が下落したことも、日経平均株価の重荷になりました。

※※

1. 月別アノマリー紹介

13. まとめ

それでは、各月の成績を確認しましょう。成績は以下の通りです。

	上昇	下落	平均利益	平均損失	平均損益
1 月アノマリー	57.00%	43.00%	9.29%	-6.92%	2.27%
2 月アノマリー	50.36%	49.64%	8.74%	-7.51%	0.66%
3 月アノマリー	53.71%	46.29%	9.90%	-7.62%	1.75%
4 月アノマリー	49.64%	50.31%	10.43%	-6.03%	2.11%
5 月アノマリー	48.59%	51.41%	9.80%	-7.68%	0.80%
6 月アノマリー	53.59%	46.41%	8.55%	-6.80%	1.40%
7 月アノマリー	45.31%	54.69%	7.40%	-6.93%	-0.43%
8 月アノマリー	41.68%	58.32%	8.20%	-7.39%	-0.87%
9 月アノマリー	48.49%	51.51%	7.72%	-7.24%	0.02%
10 月アノマリー	43.39%	56.61%	8.27%	-8.41%	-1.15%
11 月アノマリー	46.02%	53.98%	8.13%	-7.60%	-0.36%
12 月アノマリー	52.52%	47.48%	8.35%	-7.64%	0.74%

上記の表を見ると、1月、2月、3月、4月、5月、6月、9月、12月で平均損益がプラスとなり、株価が上がりやすい月であると分かります。12月から6月にかけて7か月連続で株価の上昇が確認できますので、利益を出しやすい期間といえるのではないのでしょうか。しかし、市場全体で株価が上がりやすいといっても市場や業種ごとに傾向は違いますので、各月ごとの傾向をよく確認しておきましょう。

あとがき

西村 剛（にしむら つよし）です。最後まで、本レポートをご覧下さいまして、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

本レポートは、いかがでしたでしょうか。今回は過去 23 年のデータをもとに各月における日本株市場の傾向と対策をまとめました。各月においてそれぞれ注目する市場、業種、銘柄は全く異なることが確認できましたね。「月別アノマリー」を知ることで、株を買ってよいタイミング、手仕舞いするタイミングがおおよそわかったのではないのでしょうか。これを知っているだけでも結果は大きく変わってきます。冒頭でも説明したとおり、この「月別アノマリー」を活用することで

- 勝率がアップ
- 平均損益率がアップ
- 最大ドローダウン（リスク）が減少

このような効果が得られます。もちろん、年や月ごとのトレンドに目を向け、その時その時の状況に合わせて投資をすることも重要です。しかし、この月別アノマリーを利用し、先を見据えた投資戦略を立てることで安定した利益を上げることができると私は考えています。

今回は「月別アノマリー」に関して説明しましたが、冒頭で紹介したように他にもたくさんのアノマリーが存在します。それらのアノマリーをうまく活用することで皆さんの投資成績が改善するかもしれません。ですので、様々なアノマリーを活用してみたいはいかがでしょうか。

なおこのレポートで記述されたバックテスト結果は、全て弊社ソフト「**システムトレードの達人**」を使用して検証しています。

「システムトレードの達人」はシステムトレードの第一人者齊藤正章氏が企画から開発まで携わっている株式投資専用のパソコンソフトです。（無料フリー版も期間限定で公開しています）

<https://sys-tatsu.com/download/>

株式投資専用と言うと、どうしても難しいイメージがあります。しかし、この「システムトレードの達人」は、直感操作で動かせ、まるで子供が「おもちゃ」で遊ぶように楽しみながら「将来すべき最適な売買方法」分かる株式投資専用パソコンソフトなのです。

マウス一つで、売買ルールの作成から検証、さらにはどの銘柄を買えばよいかまですべてこのソフトで調べることができます。

ただ皆様の中には、他の投資ソフトと同じではないかと思われる方も多いかと思います。

そこで、操作の方法から投資に関する相談、さらには株式投資に関する不安や疑問を解消していただくために、電話やメールでサポートを承っております。

また、「システムトレードの達人」を購入していただいた方々の方々のみのコミュニティを開設しており、多くの方から売買ルール作成となるヒントを得ることができます。

さらに、わたくし西村剛が「システムトレードの達人」を使用して、株式投資を成功させるマル秘戦略レポートを書いておりますので、合わせてご覧頂けたらと思います。

<http://goo.gl/xl8UH>

いかがでしたでしょうか。

このように、「システムトレードの達人」にはソフトだけでなく、快適な投資生活を送るための万全なサポート体制がついています。

ぜひ「システムトレードの達人」を活用して、様々な売買ルールを検証し、自分だけの有効な売買ルールを作り上げてみませんか。

そして、皆さまが、その名の通り「システムトレードの達人」となり、投資家として成功をおさめてみませんか。

私たち、システムトレードの達人サポートセンターは、システムトレードをお考えの投資家のみなさんを全力でサポートしていきます。

最後までお読みくださりましてありがとうございました。

皆様がシステムトレードを利用して快適な投資生活を送れるよう心からお祈り申し上げます。

参考文献・資料等

【使用パソコンソフト】

「システムトレードの達人（正規版）」, <http://goo.gl/Wk7kE>
会員制レポート付き「システムトレードの達人（月額版）」, <http://goo.gl/u7OVI>

【参考文献】

西村剛・田村裕一監修 「1億円儲けるための株式投資スケジュール帳 2019年版」

【参考レポート】

西村剛著『システムトレードの達人 マル秘戦略レポート』, <http://goo.gl/xl8UH>

【参考記事】

オールアバウト西村剛 <https://allabout.co.jp/gm/gp/259/>

【参考DVD】

西村剛著「アノマリーを活用した売買ルール改良法」

本レポートについて、ご質問・ご不明な点などございましたら、下記サポートセンターまでご連絡下さいますようお願い致します。

「システムトレードの達人」サポートセンター

電 話： 03-6280-4580

E-mail： support@sys-tatsu.com

受付時間：11:00～19:00（土日祝日を除く）

～過去23年の統計データから分析～
日本株の傾向と対策（2023年版）

【特別レポート】
FEアトレード株式会社

2020年8月11日発行

2023年2月7日改定

発行人 西村 剛（にしむら つよし）
発行所 東京都中央区八丁堀2-21-6 八丁堀
NFビル9階
Email：support@sys-tatsu.com
TEL：03-3555-3260